2023.08

LACELLE

ランドリーパネル収納 [ラクエル]

施工説明書

必ずお読みください

施工される方へ

施工前に製品をよくお確かめください。

品質管理には万全を期していますが、万一品質に不都合な点がございましたら、販売店様または弊社営業まですぐにご連絡ください。施工前の製品に限り、販売店様を通じて代替品と交換させていただきます。施工後の交換、補修はいたしかねますので必ず施工前にご確認お願いします。

ご注意

ご使用になる前に必ずこの「施工説明書」をご一読いただきますよう、お願いいたします。間違った施工を行ないますと製品の品質劣化や損傷につながる可能性があります。本書にそわず施工を行なった場合については、当社での保証はしかねますのでご注意ください。

施工上のご注意

屋外禁止

内装専用の製品です。屋外での使用はできません。

キズ注意

施工時に部材表面をキズつけないようご注意ください。

水・湿気禁止

屋内でも直接水のかかる場所や湿度の高い場所での使用はしないでください。

火気厳禁

木質製品です。火気の取り扱いには充分お気をつけください。

テープ禁止

粘着テープ（セロハンテープ・シール等）を化粧面に貼らないでください。

溶剤厳禁

溶剤・薬品・油・インク等が付着しないようにご注意ください。付着した場合はすぐに拭き取ってください。放置するとシミ・変色・劣化の原因となります。

目次

製品図面・パーツセット明細 ……1～4
施工前の確認事項 ……5
下地固定 躯体準備 ……6
下地固定 施工手順 ……7～9
間柱固定 躯体準備 ……10
間柱固定 施工手順 ……10～12
下地固定・間柱固定
共通施工手順 ……13～21
設置位置イメージ ……22～26

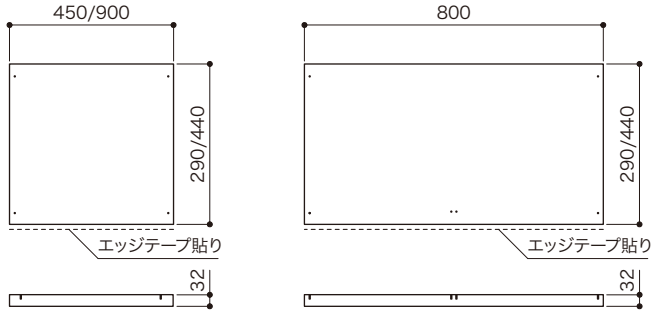
施工方法には下地固定と間柱固定があります。
下地の状態をご確認の上、施工を行なってください。

製品図面・パーツセット明細

寸法単位:mm

ベーシックパーツ　以下のパーツがすべて揃っているかをご確認ください。

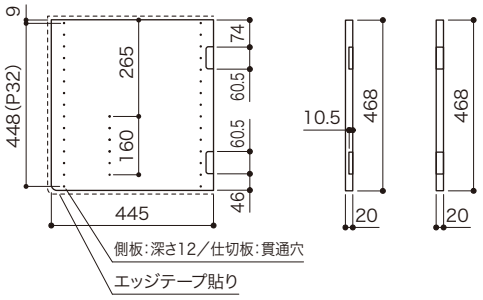
フィラー天板



部品	樹脂金具	バインドビスL=16
	4個	8本

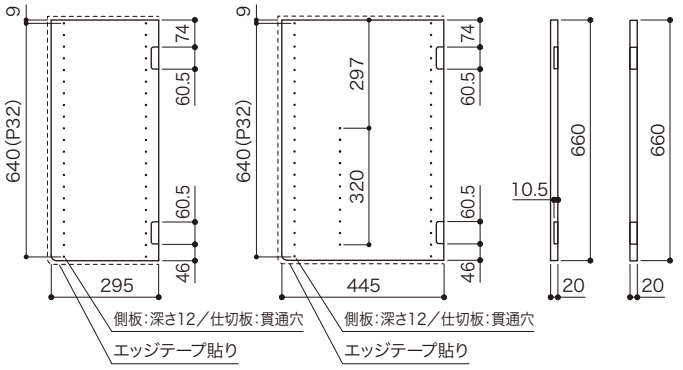
側板・仕切板　※側板は、左右各1枚・計2枚入です。

H468 × D4



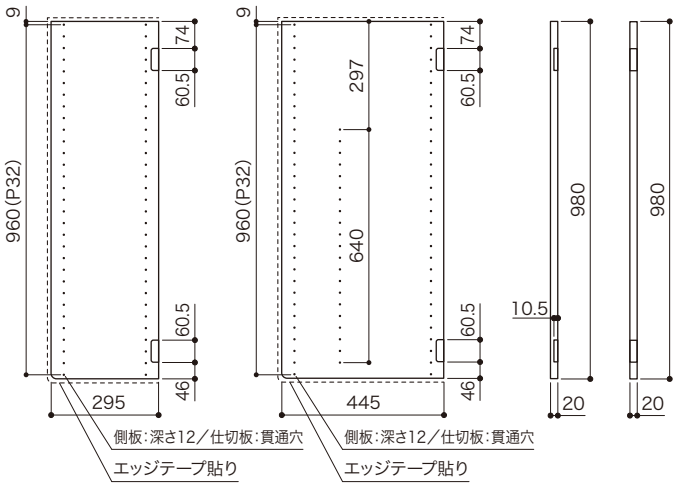
図面は左用。右用はこの対称形。

H660 × D3　H660 × D4



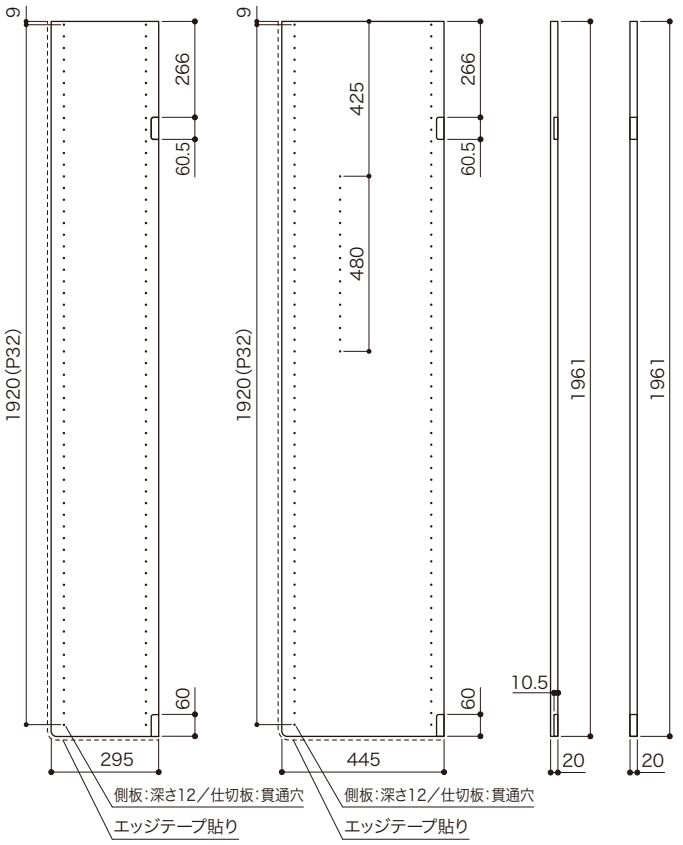
図面は左用。右用はこの対称形。

H980 × D3　H980 × D4



図面は左用。右用はこの対称形。

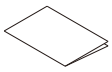
H1961 × D3　H1961 × D4



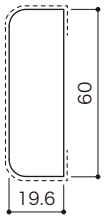
図面は左用。右用はこの対称形。

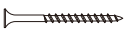
製品図面・パーツセット明細

寸法単位：mm

部品	パーツ／サイズ		L字ブラケット	L字カバー	システムビスL=13.5	サラビスL=51	ビスキャップセット	バインドビスL=16	施工・取扱説明書
							ビスキャップ ワッシャー		
	側板	H468・660・980	4個	4個	4本	16本	8セット	8本	各1式
	側板	H1961	4個	4個	4本	20本	12セット	8本	各1式
	仕切板		4個	4個	4本	8本	ー	4本	ー

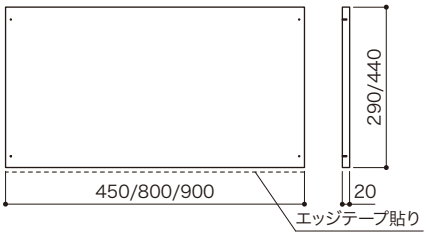
背壁桟木　※上下各1本・計2本入です。



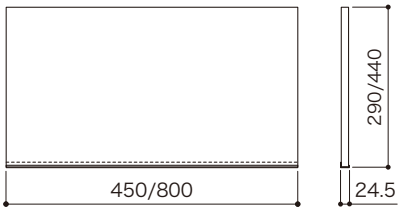
部品	サイズ	サラビスL=65	ビスキャップセット
			ビスキャップ ワッシャー
	L950	6本	4セット
	L1430	8本	6セット
	L1950	10本	8セット
	L2950	14本	12セット

プラスアップパーツ　以下のパーツがすべて揃っているかをご確認ください。

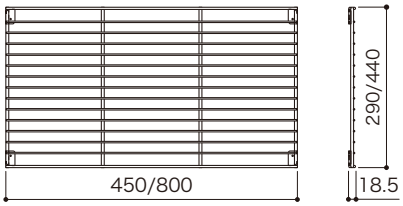
棚板（可動・固定兼用）



耐熱・耐汚棚（可動・固定兼用）

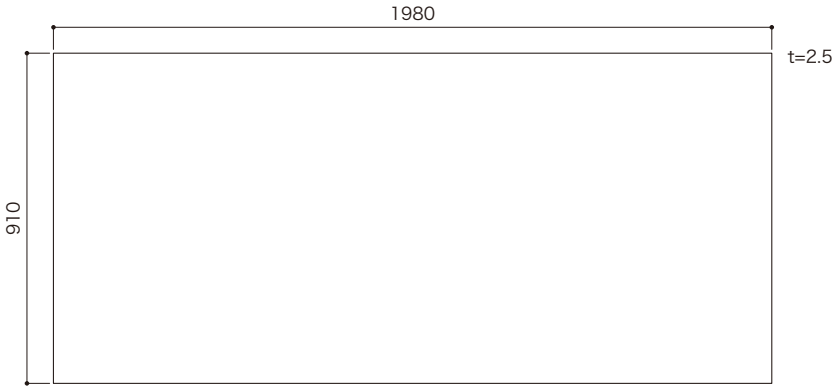


網棚（可動・固定兼用）



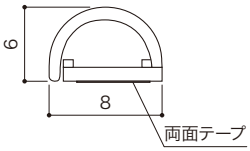
部品	パーツ	樹脂金具	バインドビスL=16	固定ネジL=10	可動棚受（前）	可動棚受（後）
	棚板	4個	8本	ー	左右各1個	2個
	耐熱・耐汚棚	4個	8本	ー	左右各1個	2個
	網棚	4個	4本	4本	左右各1個	2個

背板パネル



隙間かくし材

［断面図］



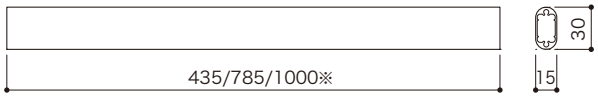
製品図面・パーツセット明細

寸法単位:mm

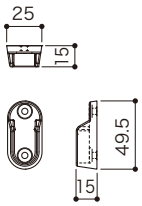
プラスアップパーツ　以下のパーツがすべて揃っているかをご確認ください。

ハンガーパイプ

■ パイプ



■ パイプソケット

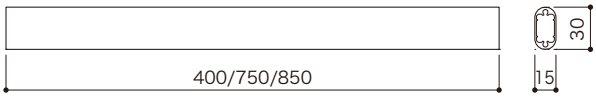


品部	パイプソケット	バインドビスL=16
	2個	4本

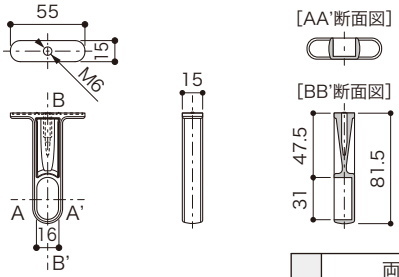
※幅1000には、中吊ブラケットが同梱されていますが、施工には必要ありません。

上吊ハンガーパイプ

■ パイプ

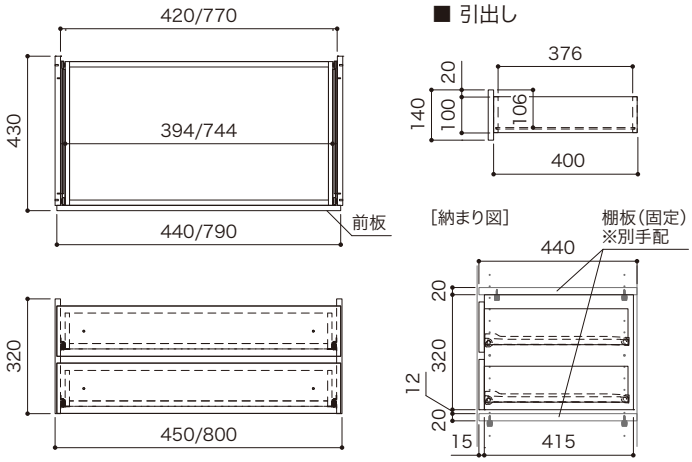


■ 両端ブラケット



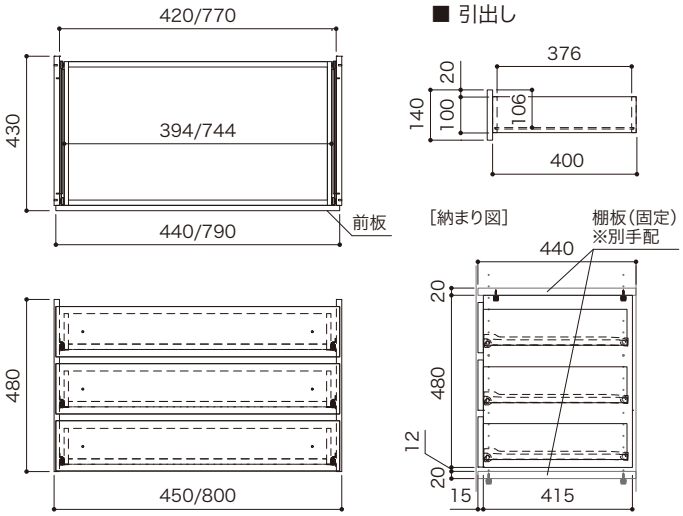
品部	両端ブラケットセット	
	両端ブラケット	ボルト・ビスキャップ
	2セット	

フレーム引出し2段



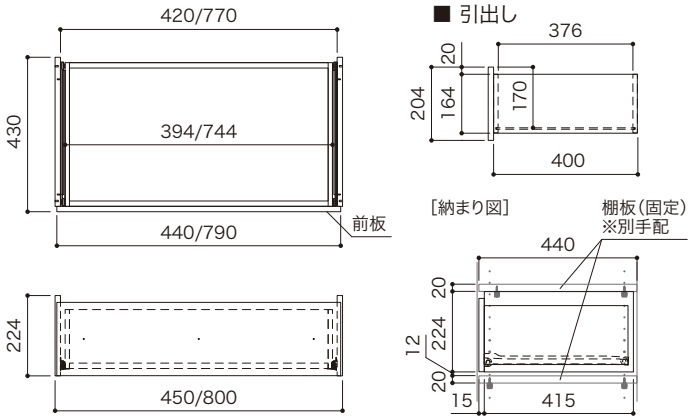
品部	ビスL=25	位置だしピン
	14本	4本

フレーム引出し3段



品部	ビスL=25	位置だしピン
	17本	4本

深型フレーム引出し1段



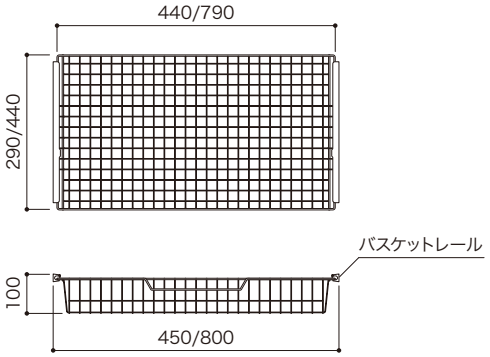
品部	ビスL=25	位置だしピン
	11本	4本

製品図面・パーツセット明細

寸法単位：mm

プラスアップパーツ　以下のパーツがすべて揃っているかをご確認ください。

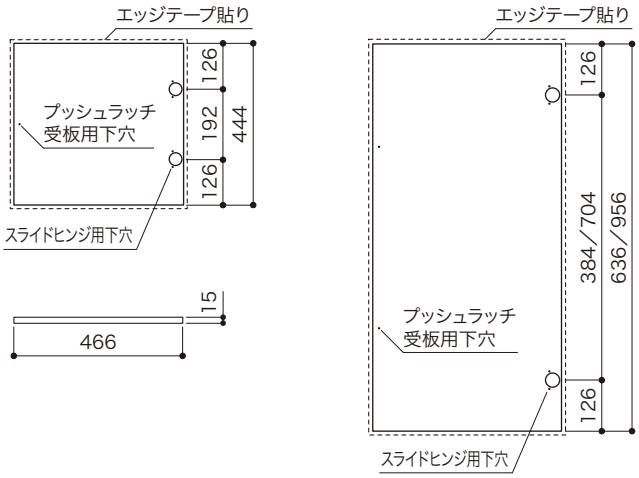
バスケット



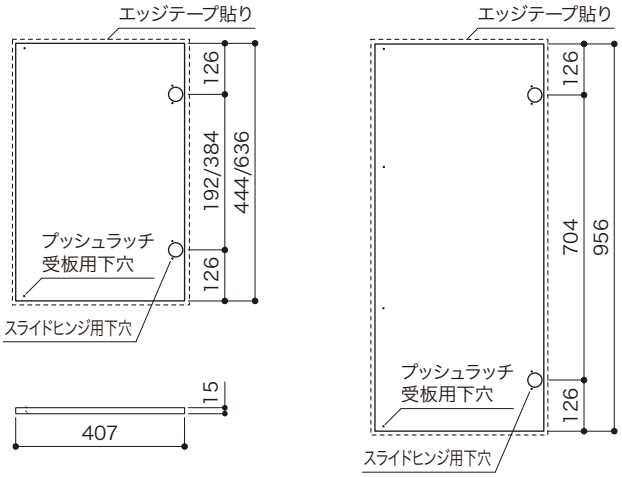
品部	バスケットレール	サラビスL=13
	左右各1本	4本

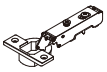
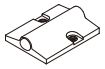
開戸　※片開きタイプは1枚入、両開きタイプは2枚入です。

■ 片開きタイプ

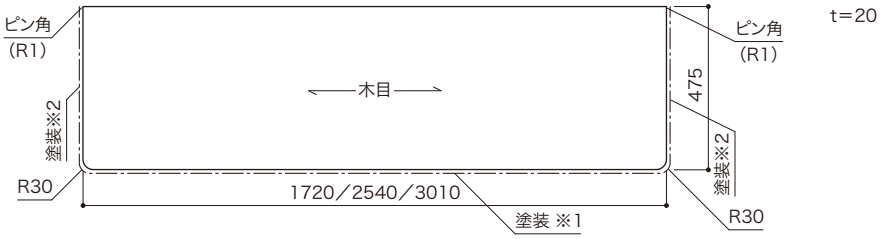


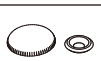
■ 両開きタイプ

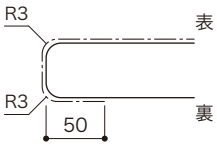
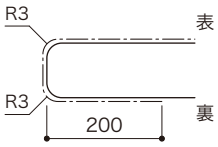


品部	タイプ	スライドヒンジ	座金	ヒンジ用ビスL=13.5	サラビスL=14	トラスビスL=16	薄型面付アタッチメント	プッシュラッチ	プッシュラッチ受板	サラビスL=12
				ヒンジ・座金取り付け用	座金取り付け用	プッシュラッチ取り付け用				プッシュラッチ受板取り付け用
	片開きタイプ	2個	2個	8本	2本	2本	1個	1個	1個	1本
	両開きタイプ	4個	4個	16本	4本	4本	2個	2個	2個	2本

耐水カウンター



品部	サラビスL=45	ビスキャップセット
		 ビスキャップ（3柄あり） ワッシャー
	10本	10セット

裏面塗装範囲	
※1 	※2 

L字ブラケットセット

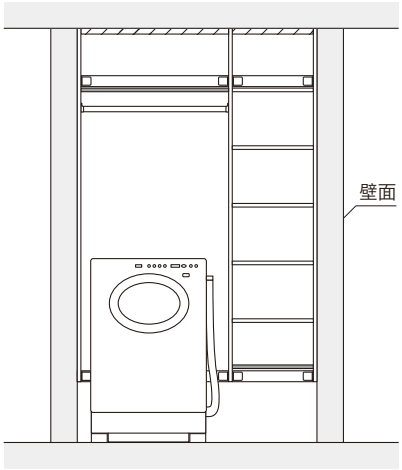
品部	L字ブラケット	L字カバー	サラビスL=16
	4個	4個	12本

施工前の確認事項

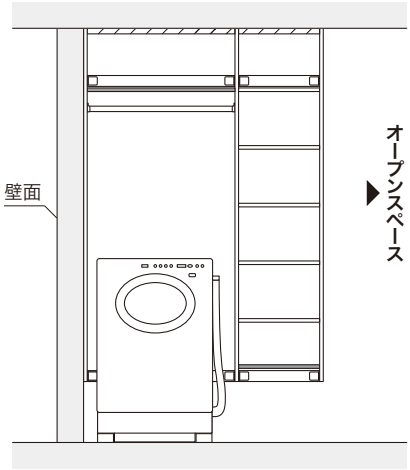
寸法単位:mm

[設置条件について] 設置方法には **両側壁納め** ・ **片側オープン** ・ **両側オープン** の3パターンがあります。
プランによって、施工方法・条件が異なりますので、施工前に必ず、以下の説明をお読みください。

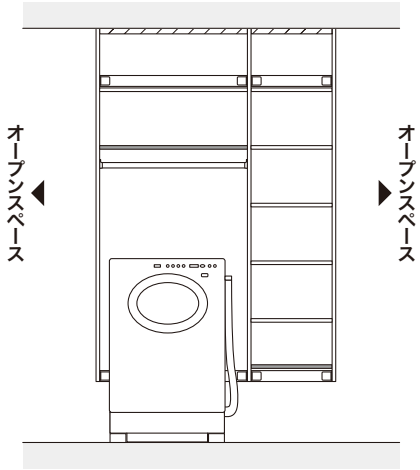
両側壁納め



片側オープン



両側オープン

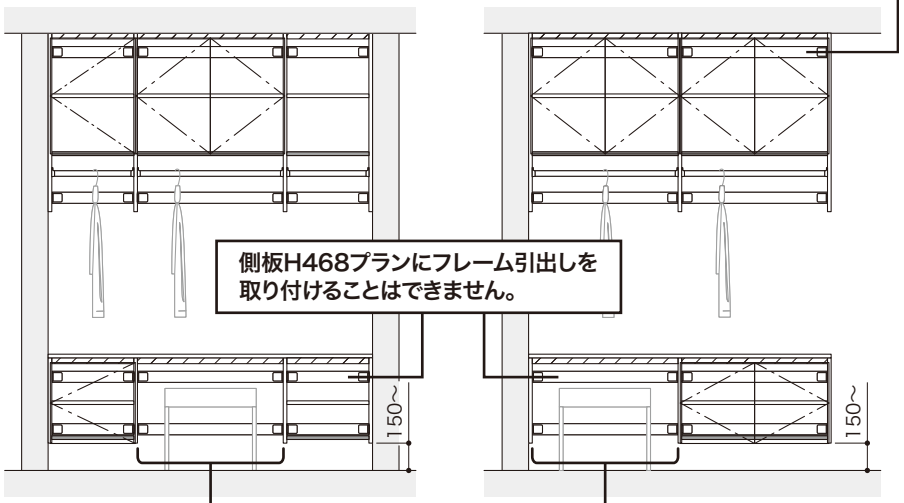


部材設置イメージ図

使用の上で支障のない高さに設置してください。

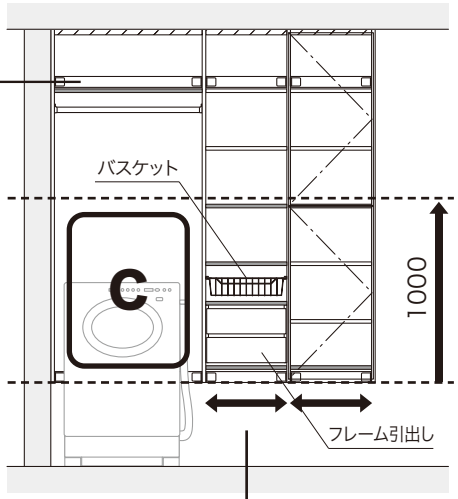
背壁桟木の設置位置について 背壁桟木は側板から側板の間で納めてください。

■ セパレートプラン



側板H468プランにフレーム引出しを取り付けることはできません。

■ スタンダードプラン



A 両隣りに各棚板(固定)がある列は、各棚板(可動)のみ、もしくはフリースペースとしての構成が可能です。

B 壁面と各棚板(固定)列の間の列は、各棚板(可動)のみ、もしくはフリースペースとしての構成が可能です。

間口カットについて
網棚、バスケット、フレーム引出し、開戸を設置する列は間口カットができません。

各棚板を設置する場合

■ セパレートプラン

すべての列に各棚板(固定)を1箇所以上設置してください。
ただし、条件 **A** 、**B** の場合は、各棚板(可動)のみ、もしくはフリースペースとしての構成が可能です。

■ スタンダードプラン

●1列につき各棚板(固定)を1枚以上設置してください。
●設置高は側板・仕切板下面から1000mm以内です。お守りいただけない場合、全体の寸法精度および強度が保てない可能性があります。
※上図 **C** のように、下部にパーツを取り付けない場合は、側板・仕切板下面から1000mm以内の位置に各棚板(固定)を設置する必要はありません。

●ハンガーパイプを取り付ける場合は、上部に各棚板(固定)を設置してください。
●フレーム引出しを取り付ける場合は、上下に1枚ずつ棚板(固定)、耐熱・耐汚棚(固定)のいずれかを設置してください。
●バスケットを取り付ける場合は、上下に1枚ずつ各棚板(固定)を設置してください。
●開戸を取り付ける場合は、上下に1枚ずつ棚板(固定)、フィラー天板のいずれかを設置してください。
プッシュラッチを側板・仕切板へ取り付ける場合は、耐熱・耐汚棚(固定)、網棚(固定)も開戸の上下に設置できます。

各棚板について 各棚板 棚板／耐熱・耐汚棚／網棚の3種類があります。

床から150mm以上離して設置してください。
各棚板(固定)設置の際、樹脂金具の固定に150mm以上の間隔が必要です。

背板パネルを取り付ける場合
全ての列に背板パネルを設置してください。

施工方法には、
下地固定と間柱固定があります。

下地固定：6ページ ～

間柱固定：10ページ へ

躯体準備　下地固定

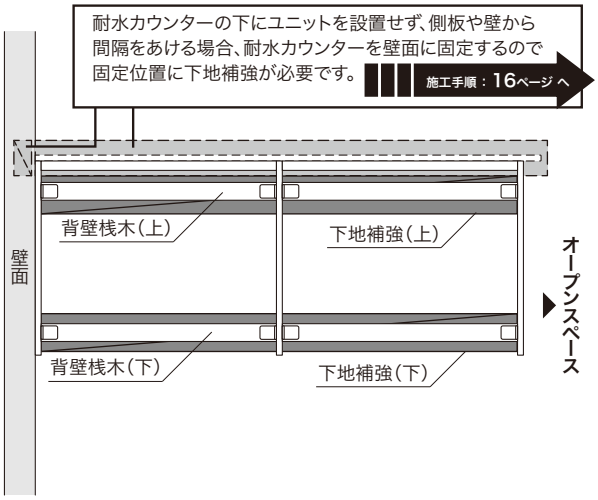
寸法単位：mm

●施工前に躯体の垂直・直角を確認してください。
●躯体や側板・仕切板と背壁桟木の垂直・直角がとれていないと、各棚板の可動に影響が出ますのでご注意ください。
●あらかじめ背壁桟木を取り付ける部分に補強桟木や12mm厚以上の合板（現場調達）で下地補強をしてください。（設置位置は下図参照）
●背壁桟木の取り付けピッチを考慮して下地補強位置を決定してください。　：下地補強位置

背壁桟木取り付けピッチ： 側板H468：**288mm** ／ 側板H660：**480mm** ／ 側板H980：**800mm** ／ 側板H1961：**1635mm**
※上下の下地補強が水平・平行に取り付いていることをご確認ください。

■ セパレートプラン

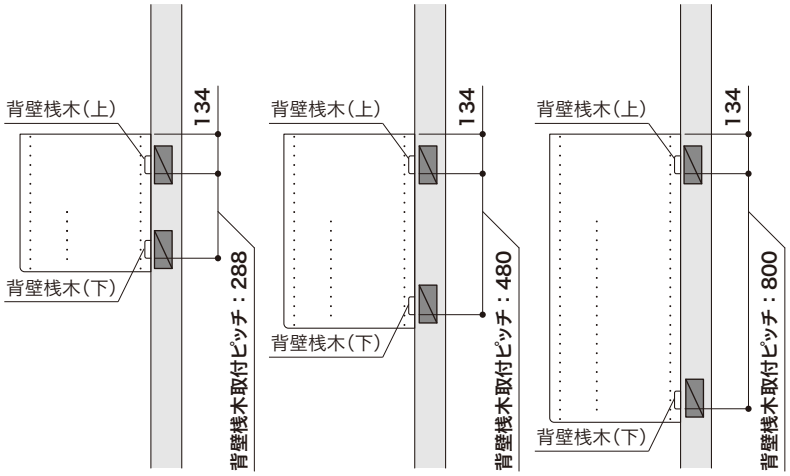
［正面図］



※上図は側板・仕切板H660を表記しています。

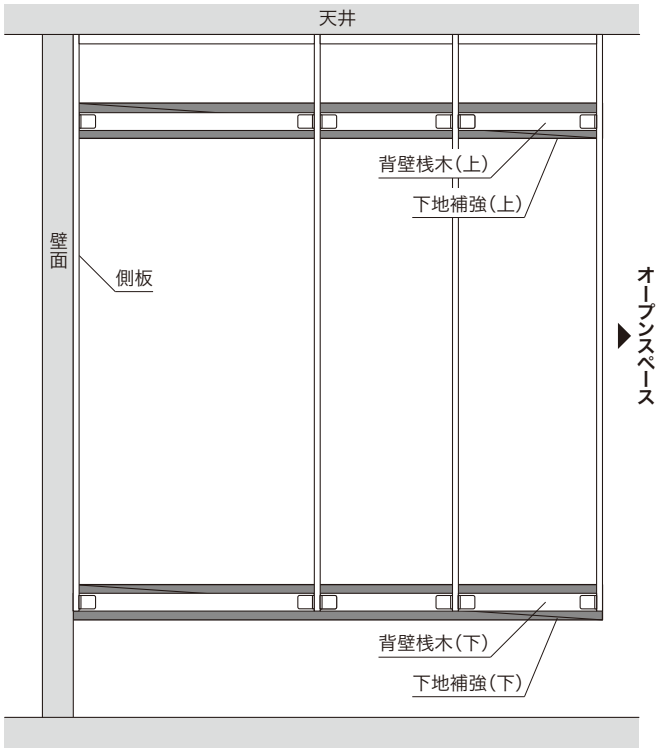
［断面図］

■ 側板H468　■ 側板H660　■ 側板H980

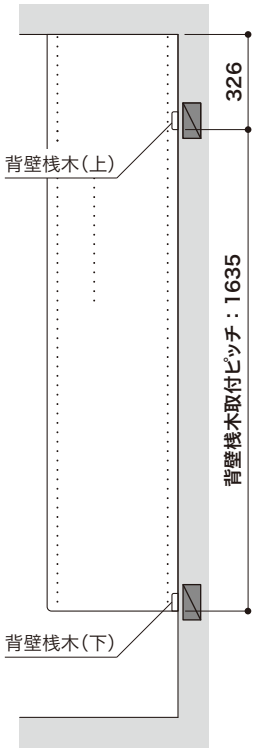


■ スタンダードプラン

［正面図］



［断面図］



寸法単位：mm

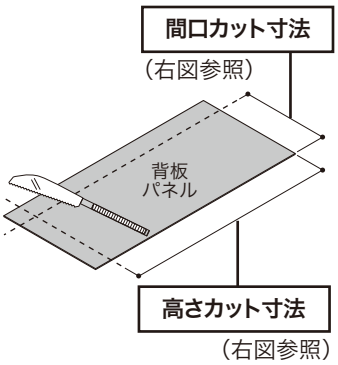
1 背板パネルの取り付け（背板パネルを取り付ける場合のみ）

ご注意

背板パネルを取り付ける場合は、クロスを貼らずに石膏ボード仕上げの上に取り付けてください。

1 背板パネルの加工

右図を参考に設置位置を確認して背板パネルをカットしてください。また、配管やコンセントなどをかわす場合は背板パネルに穴加工を行なってください。

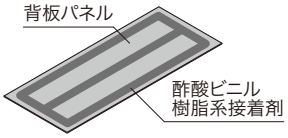


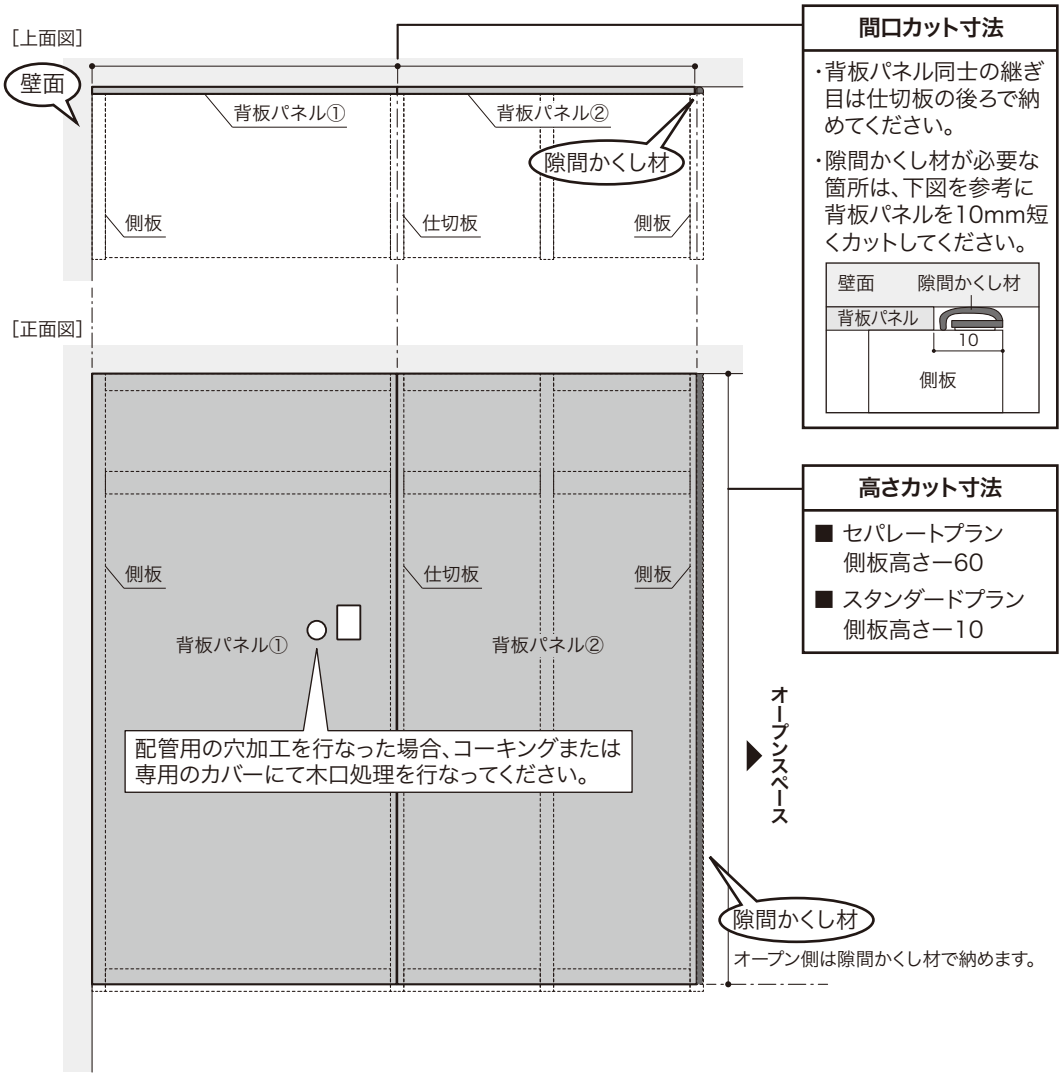
2 取り付け位置の墨出し

右図を参考に背板パネルの取り付け位置を墨出しします。

3 背板パネルの貼り付け

酢酸ビニル樹脂系接着剤＋フィニッシュネイルまたは隠し釘（現場調達）で壁面へ背板パネルを固定してください。

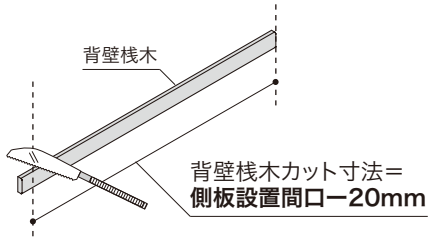


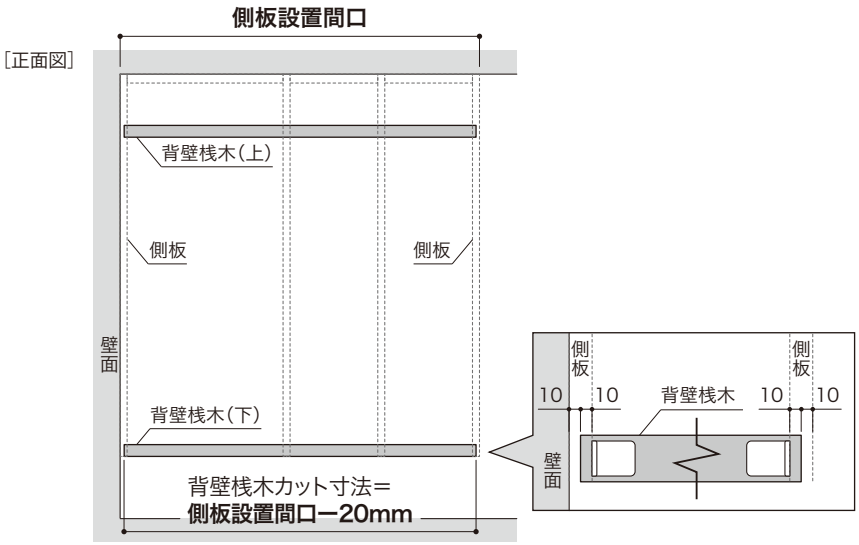


2 背壁桟木の取り付け

1 背壁桟木のカット

設置プランを確認後、背壁桟木をカットします。
（背壁桟木カット寸法：下図参照）





寸法単位:mm

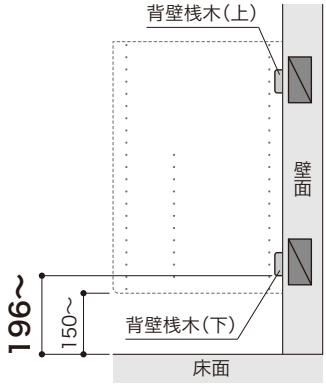
2 取り付け位置の墨出し

右図を参考に背壁桟木の取り付け位置を墨出しします。

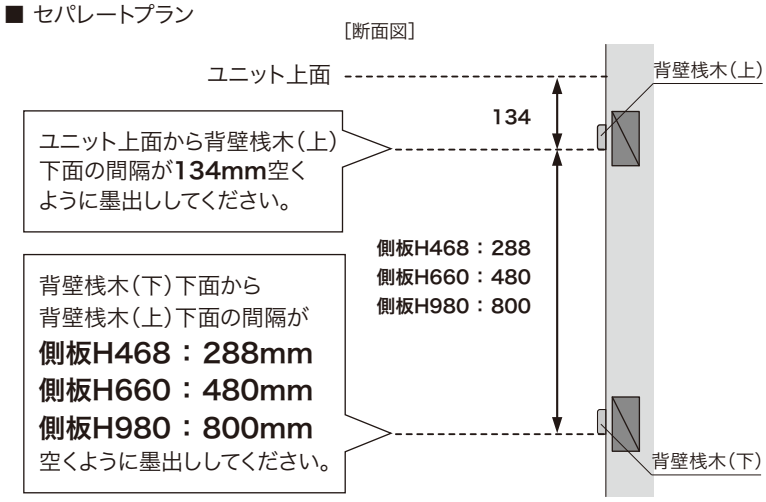
床面と背壁桟木が水平になることをご確認ください。

ご注意

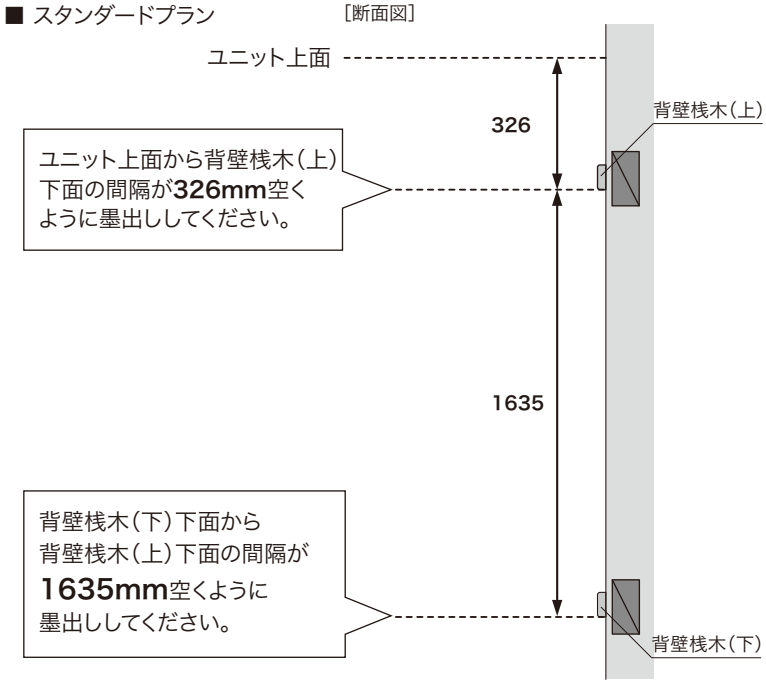
下部収納の場合、背壁桟木(下)は床から196mm以上離してください。



■ セパレートプラン

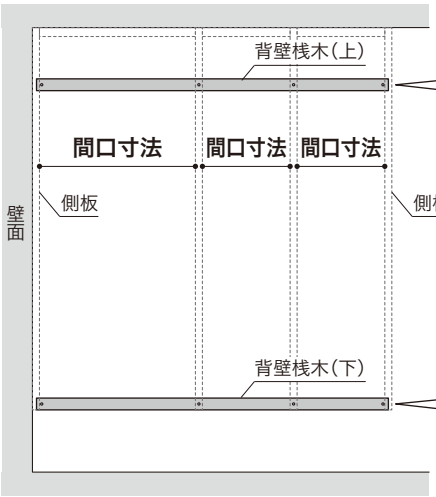


■ スタンダードプラン



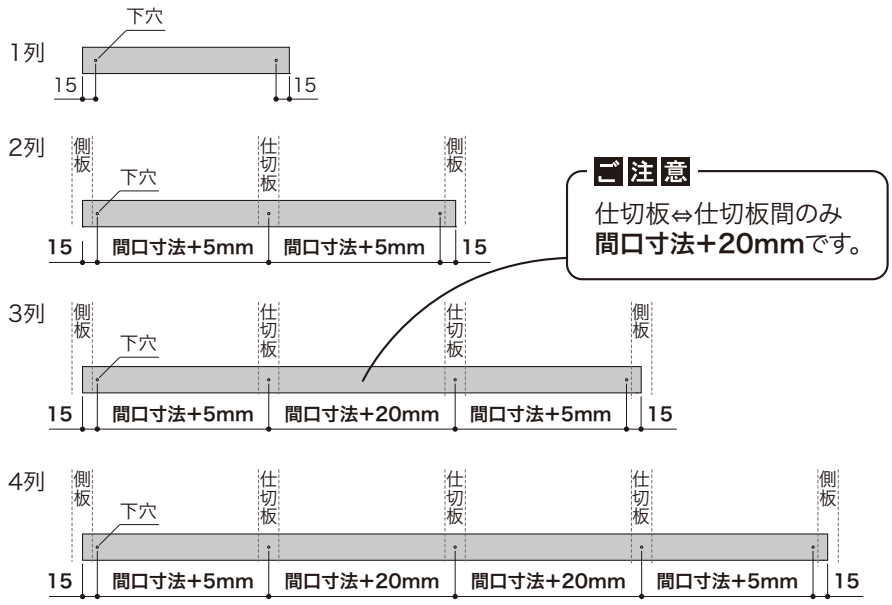
3 下穴加工

ビス頭が飛び出ないようにビスL=65を打つ位置に4mmのキリで下穴を開けます。(下穴加工位置:下図参照)



※上図は「3列」の場合を表記しています。

背壁桟木(上)、(下) 下穴加工位置



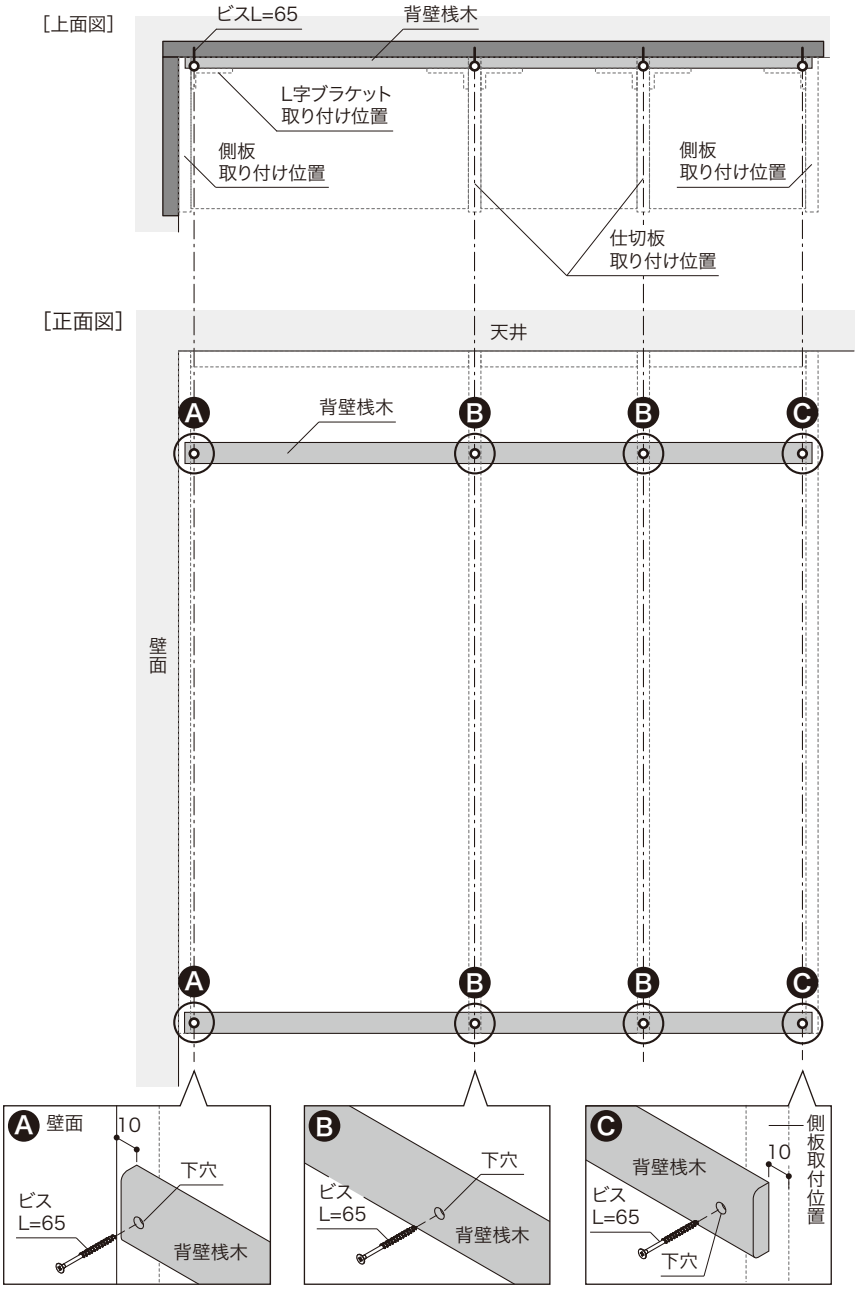
ご注意

仕切板⇔仕切板間のみ**間口寸法+20mm**です。

寸法単位:mm

4 背壁桟木の取り付け

下穴に向かってビスL=65で背壁桟木を壁に固定します。
その際、ビス頭が飛び出さないようにしてください。



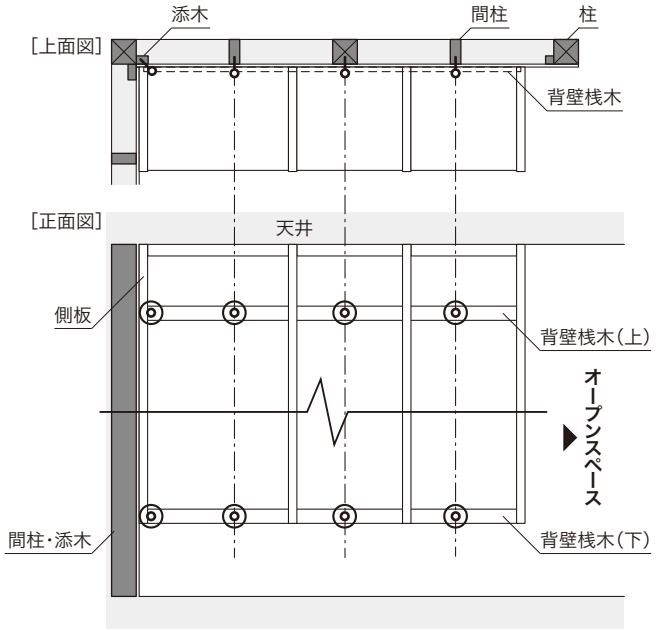
背壁桟木の取り付けが完了したら 13ページ 3 側板・仕切板へL字ブラケットの取り付け へ

躯体準備　間柱固定

寸法単位:mm

●施工前に躯体の垂直・直角、柱・間柱・添木の位置を確認してください。
　◯ :ビス固定位置

●躯体や側板・仕切板と背壁桟木の垂直・直角がとれていないと、各棚板の可動に影響が出ますのでご注意ください。



施工手順　間柱固定

寸法単位:mm

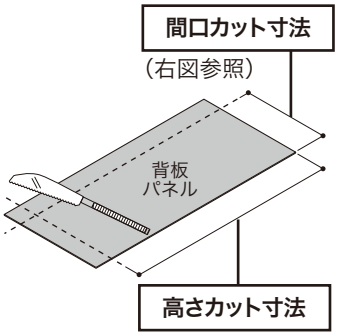
1　背板パネルの取り付け(背板パネルを取り付ける場合のみ)

ご注意

背板パネルを取り付ける場合は、クロスを貼らずに石膏ボード仕上げの上に取り付けてください。

1 背板パネルの加工

右図を参考に設置位置を確認して背板パネルをカットしてください。また、配管やコンセントなどをかわす場合は背板パネルに穴加工を行なってください。

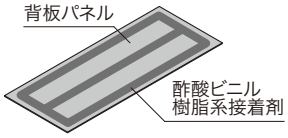


2 取り付け位置の墨出し

右図を参考に背板パネルの取り付け位置を墨出しします。

3 背板パネルの貼り付け

酢酸ビニル樹脂系接着剤+フィニッシュネイルまたは隠し釘(現場調達)で壁面へ背板パネルを固定してください。



[上面図]

壁面　背板パネル①　背板パネル②　隙間かくし材　側板　仕切板　側板

[正面図]

側板　仕切板　側板　背板パネル①　背板パネル②

配管用の穴加工を行なった場合、コーキングまたは専用のカバーにて木口処理を行なってください。

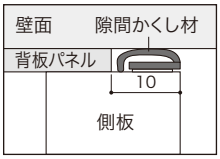
オープンスペース

隙間かくし材

オープン側は隙間かくし材で納めます。

間口カット寸法

・背板パネル同士の継ぎ目は仕切板の後ろで納めてください。
・隙間かくし材が必要な箇所は、下図を参考に背板パネルを10mm短くカットしてください。



高さカット寸法

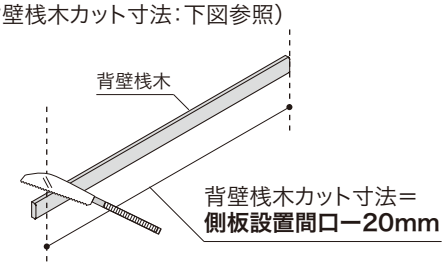
■ セパレートプラン
　側板高さー60
■ スタンダードプラン
　側板高さー10

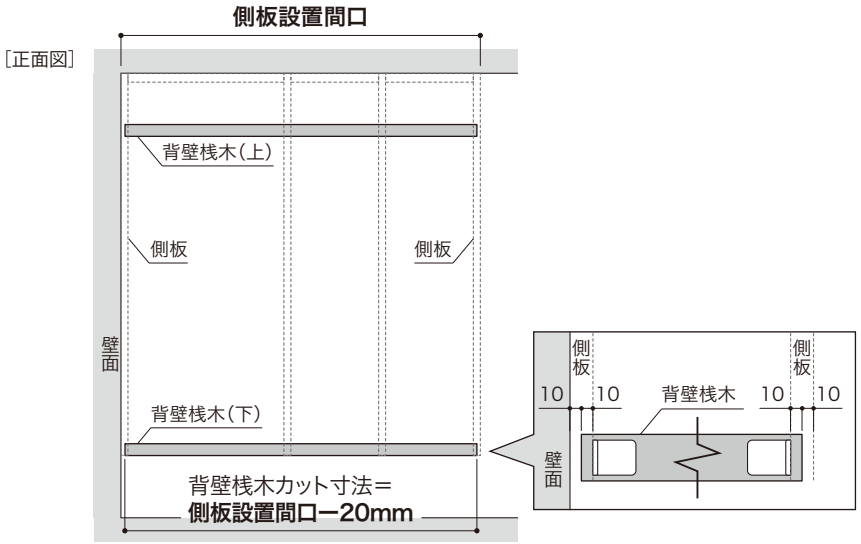
寸法単位:mm

2 背壁桟木の取り付け

1 背壁桟木のカット

設置プランを確認後、背壁桟木をカットします。
(背壁桟木カット寸法:下図参照)





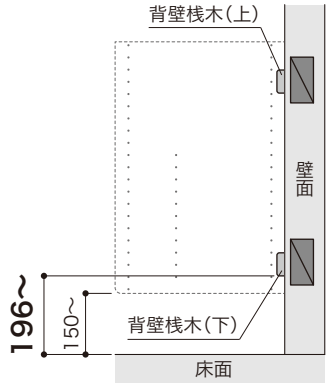
2 取り付け位置の墨出し

右図を参考に背壁桟木の取り付け位置を墨出しします。

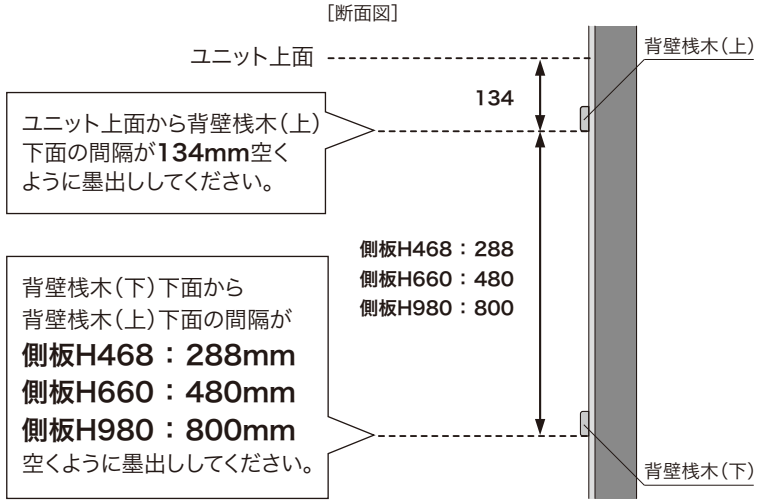
床面と背壁桟木が水平になることをご確認ください。

ご注意

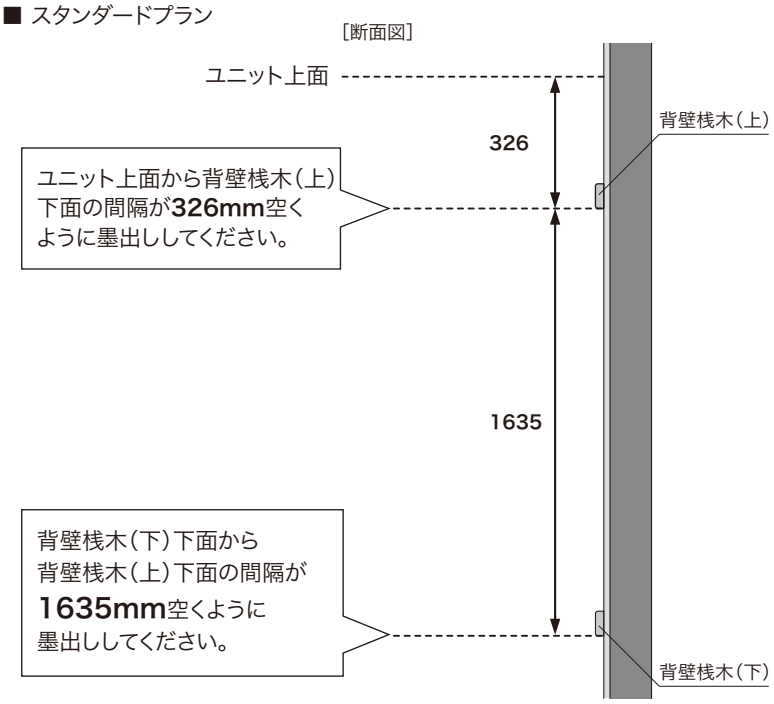
下部収納の場合、背壁桟木(下)は床から196mm以上離してください。



■ セパレートプラン



■ スタンダードプラン

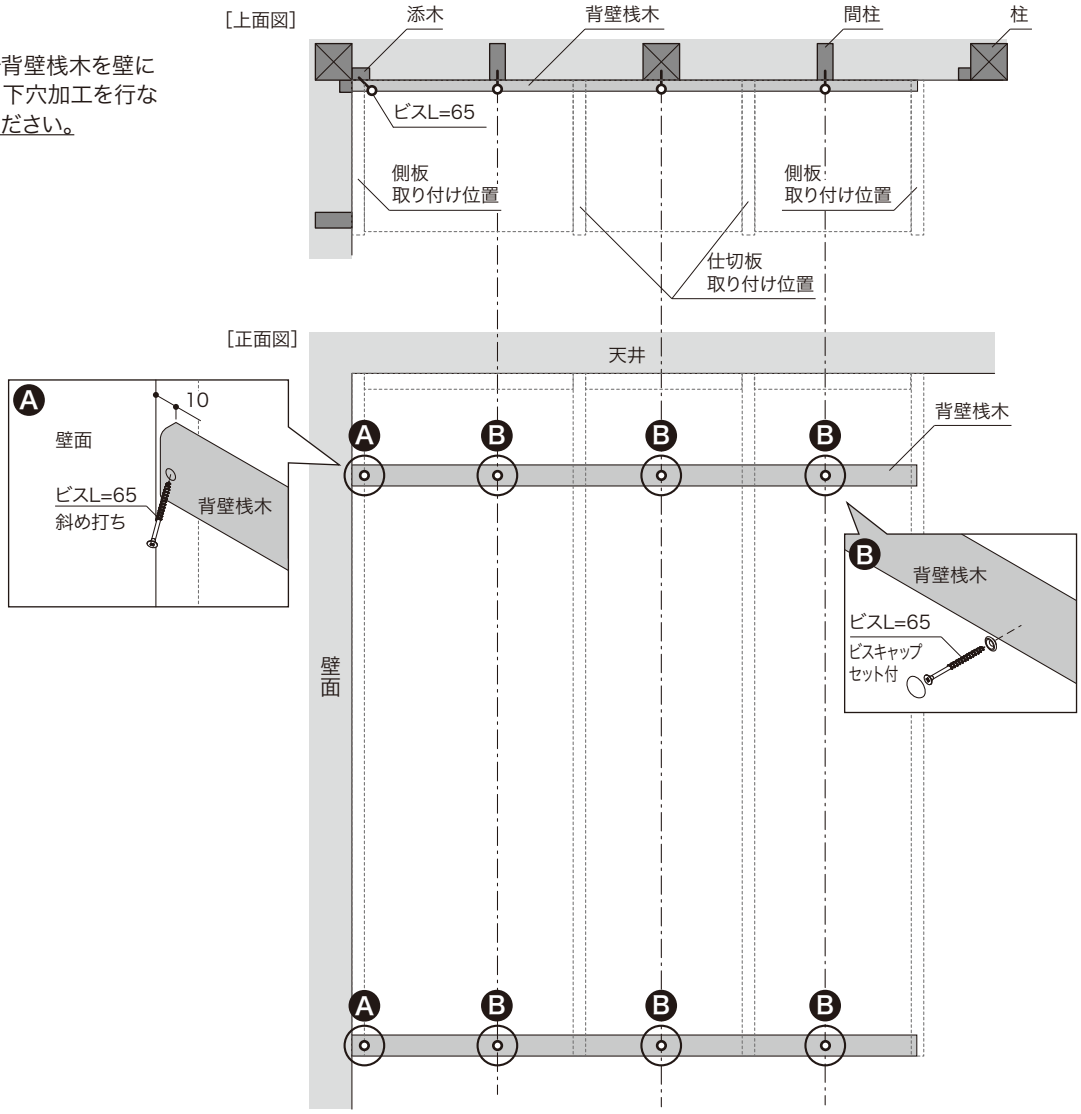


施工手順　間柱固定

寸法単位:mm

3 背壁桟木の取り付け

柱・間柱・添木に向かってビスL=65で背壁桟木を壁に固定します。添木へビス打ちする際は、下穴加工を行ない、ビス頭が飛び出さないようにしてください。



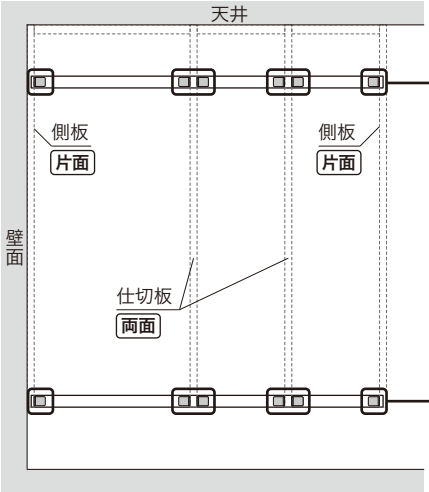
背壁桟木の取り付けが完了したら 13ページ 3 側板・仕切板へL字ブラケットの取り付け へ

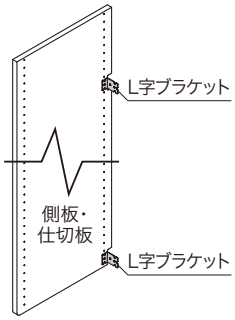
寸法単位:mm

3 側板・仕切板へL字ブラケットの取り付け

L字ブラケットの取り付け方向にご注意ください。

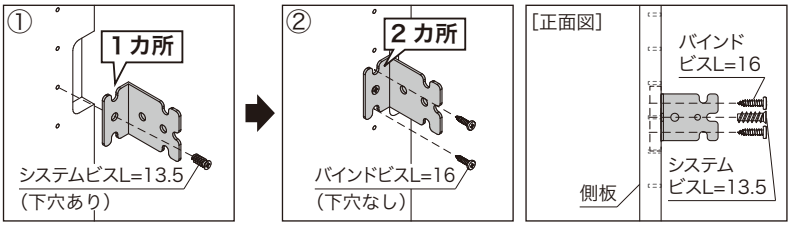
側板は片面に、仕切板は両面にL字ブラケットを取り付けてください。



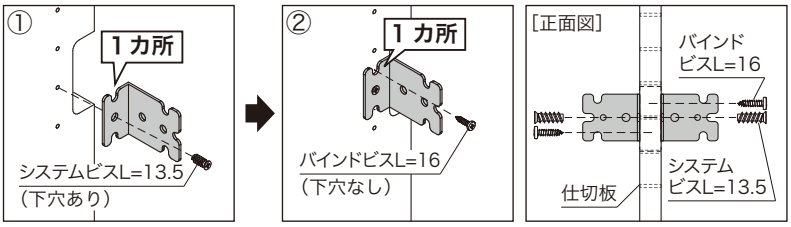


側板と仕切板でビス固定箇所が異なります。

側板 **片面**



仕切板 **両面**



※バインドビスL=16は交互になるよう固定

4 側板の取り付け

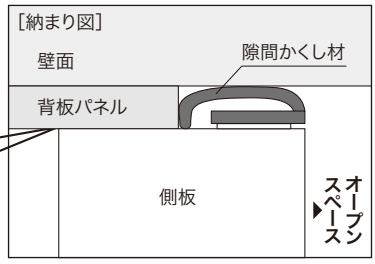
側板と背壁桟木が垂直になることをご確認ください。

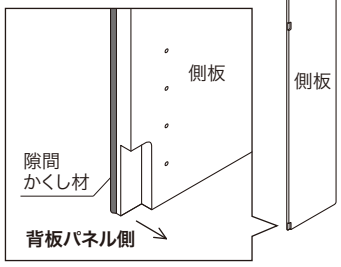
1 隙間かくし材の貼り付け(背板パネルを設置する場合 ※ 片側オープン・両側オープン のみ)

側板の長さに合わせて隙間かくし材をカットした後、両面テープを剥がしてオープンスペースへ設置する側板の指定位置へ貼り付けます。

ご注意

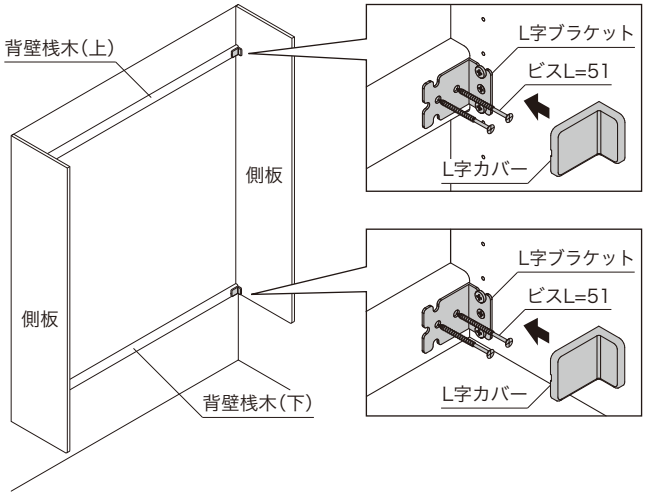
隙間かくし材には貼り付け向きがあります。右図を参考に貼り付けてください。





2 背壁桟木へ各側板を取り付け

背壁桟木(上)・(下)に側板の切り欠きを引っ掛け、L字ブラケットをビスL=51で固定しL字カバーを取り付けます。



寸法単位:mm

5 仕切板の取り付け

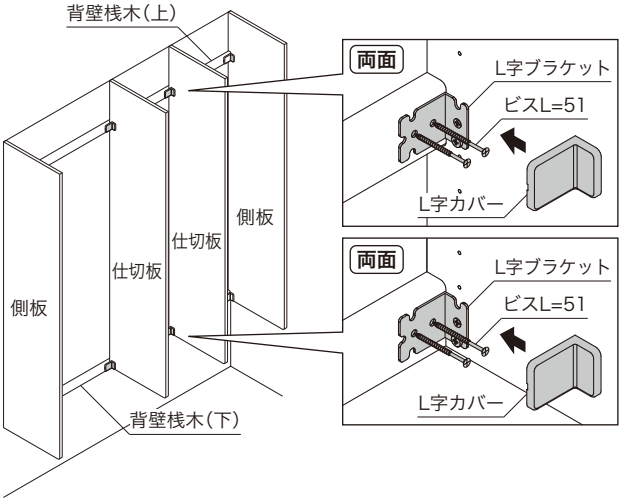
仕切板と背壁桟木が垂直になることをご確認ください。

1 取り付け位置の墨出し

設置予定部材の寸法を測り、仕切板の固定位置を墨出しします。

2 背壁桟木へ仕切板を取り付け

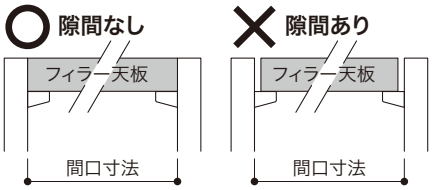
背壁桟木(上)・(下)に仕切板の切り欠きを引っ掛け、L字ブラケットをビスL=51で固定しL字カバーを取り付けます。仕切板は両面固定してください。



6 フィラー天板の取り付け

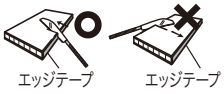
カットする場合

間口寸法と同寸法にフィラー天板をカットします。



ご注意

必ずエッジテープ側からカットしてください。
反対側からカットすると、エッジテープが剥がれるおそれがあります。



樹脂金具について

樹脂金具は施工後に、側板・仕切板の微調整ができるよう、片方の穴が楕円になっています。側板・仕切板には必ず樹脂金具の正円の穴が当たるように固定してください。

樹脂金具	正円	➡ ダボ穴／側板・仕切板
樹脂金具	楕円	➡ 下穴／フィラー天板

ご注意

バインドビスの締め過ぎにご注意ください。
ビスが空回りすると、保持力がなくなり全体の強度を保てなくなる可能性があります。

天井付けの場合

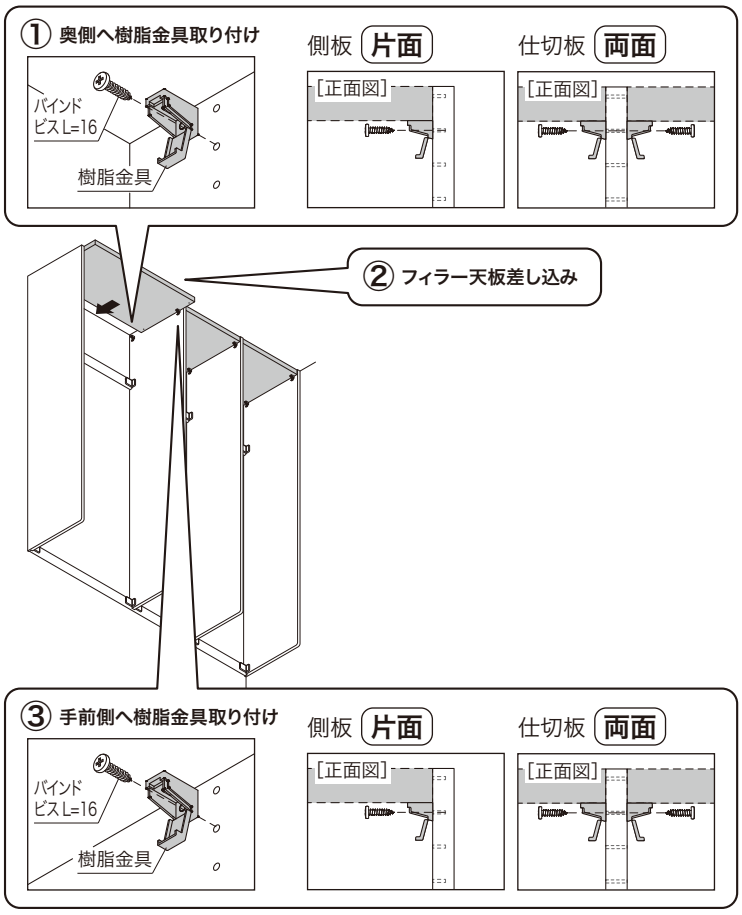
1 樹脂金具の取り付け、フィラー天板の差し込み

側板・仕切板の奥側、上から2番目のダボ穴へ樹脂金具をバインドビスL=16で固定してください。(右図①)

フィラー天板を奥まで差し込み(右図②)、側板・仕切板の手前側のダボ穴へ樹脂金具をバインドビスL=16で固定してください。(右図③)

ご注意

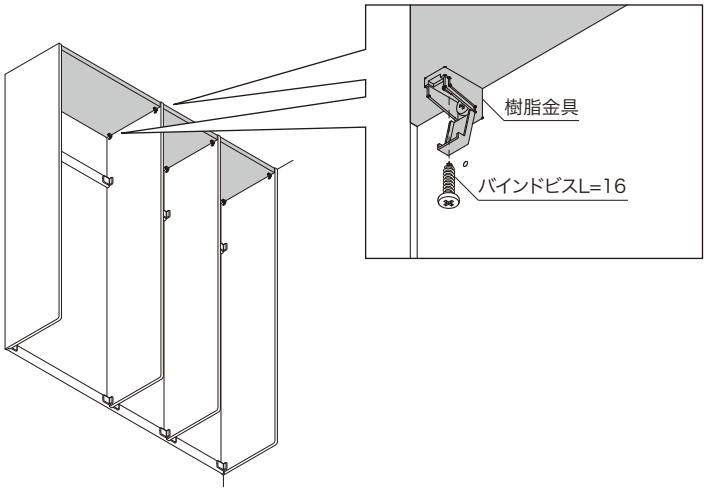
フィラー天板にプッシュラッチを取り付けない場合、天板中央部の下穴は使用しません。
下穴加工面を上側にして固定してください。



寸法単位:mm

2 フィラー天板の固定

樹脂金具の楕円に向かってバインドビスL=16でフィラー天板を固定してください。



天井付けしない場合

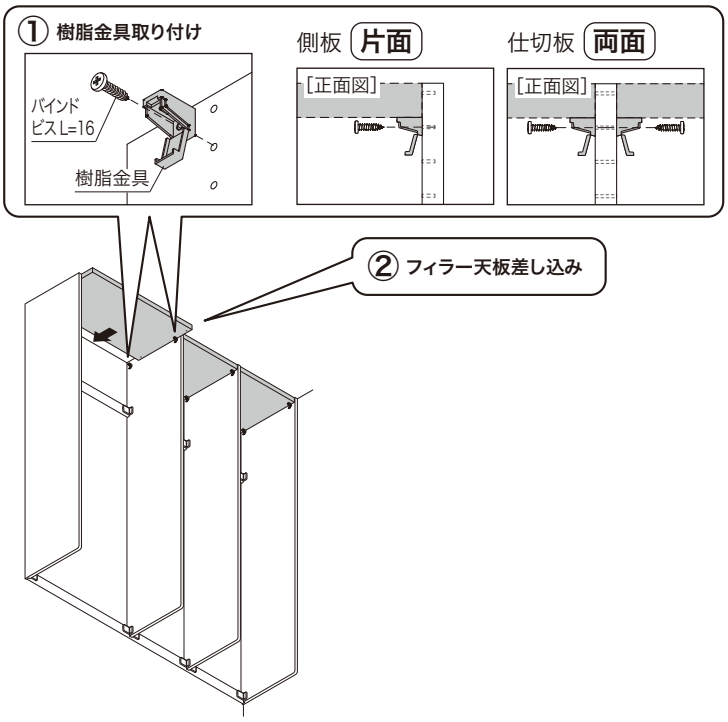
1 樹脂金具の取り付け、フィラー天板の差し込み

側板・仕切板の手前側・奥側、上から2番目のダボ穴へ樹脂金具をバインドビスL=16で固定してください。(右図①)

フィラー天板を奥まで差し込んでください。(右図②)

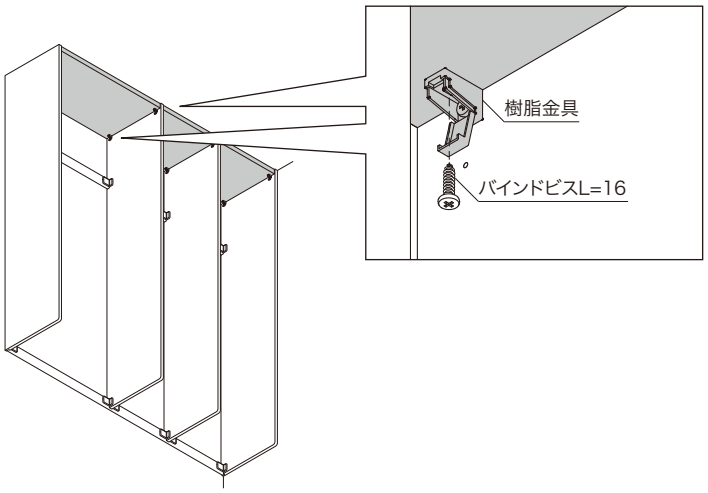
ご注意

フィラー天板にプッシュラッチを取り付けない場合、
天板中央部の下穴は使用しません。
下穴加工面を上側にして固定してください。



2 フィラー天板の固定

樹脂金具の楕円に向かってバインドビスL=16でフィラー天板を固定してください。



寸法単位：mm

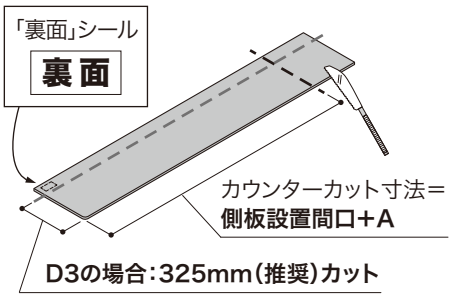
7 耐水カウンターの取り付け（下部収納のみ）

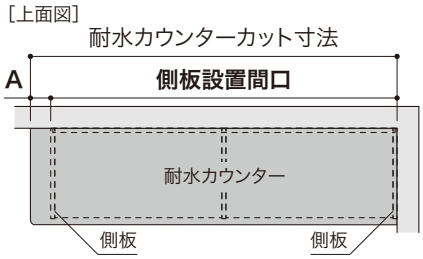
1 耐水カウンターのカット

設置プランを確認後、耐水カウンターをカットします。
（**カウンターカット寸法**：右図参照）

ご注意

- **A**は30～150mmまでに納めてください。
- 耐水カウンターには表裏があります。表面を上にして前側（R加工側）からカットしてください。

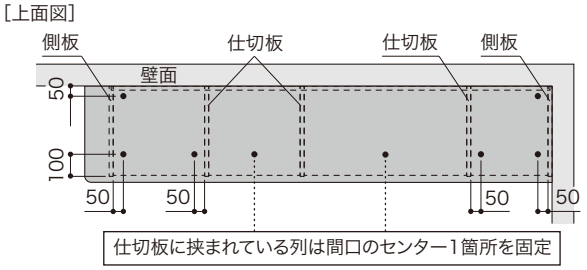


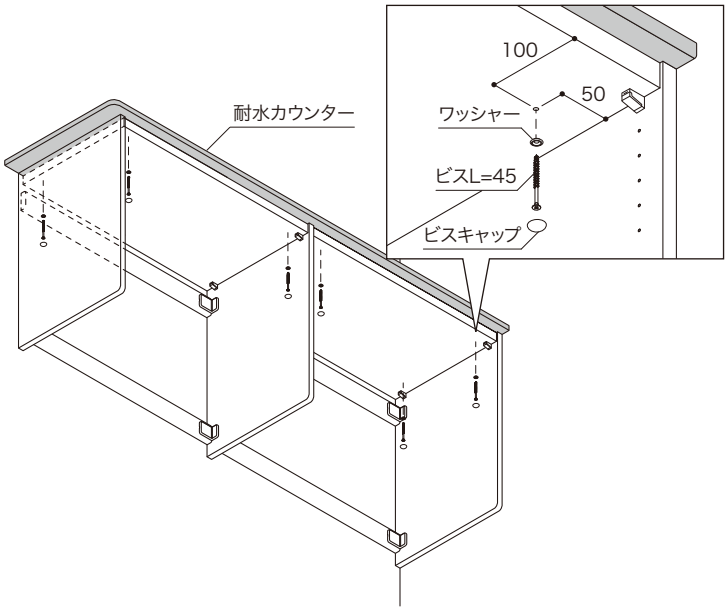


2 耐水カウンターの固定

耐水カウンターをビスL=45（ビスキャップ付）で所定の位置（下穴なし）に固定します。

ビス固定推奨位置　●：ビスL=45（ビスキャップ付）





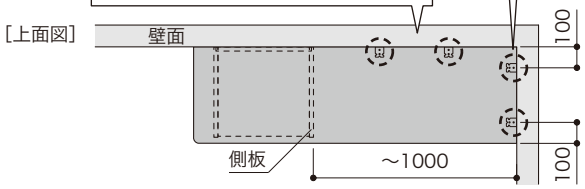
耐水カウンターの下にユニットを設置せず、側板や壁から間隔をあける場合、L字ブラケットセット※別手配 での固定が必要です。（下図◌）

L字ブラケットセット※別手配 固定位置

■ 片側のみに側板がある場合は側壁・背壁に固定

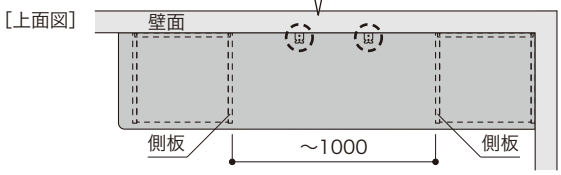
側板⇔壁	取り付け位置
～599の場合	中央に1箇所
600～1000の場合	等間隔に2箇所

前後100mmの位置に2箇所



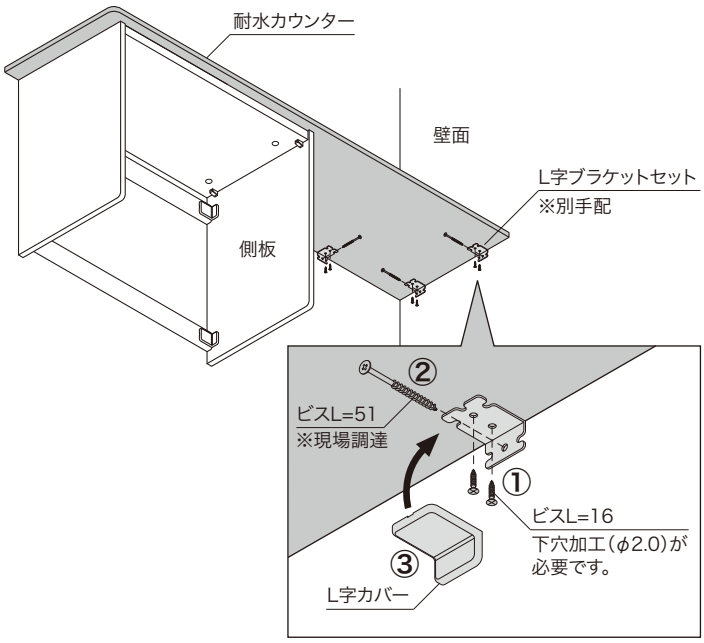
■ 両側に側板がある場合は、背壁のみに固定

側板⇔側板	取り付け位置
～599の場合	中央に1箇所
600～1000の場合	等間隔に2箇所



ご注意

側板⇔壁または側板⇔側板間は、1000mm以内に納めてください。



寸法単位:mm

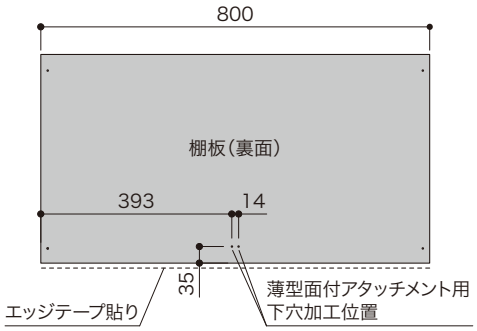
8 各棚板(固定)の取り付け

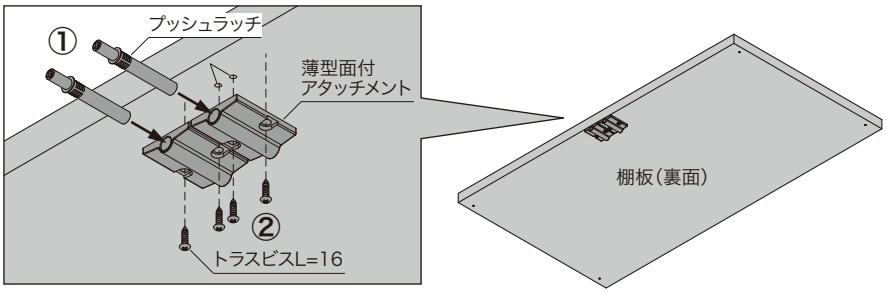
棚板へプッシュラッチの取り付け(開戸H956を設置する一部のプランのみ)

※取り付け位置をご確認のうえ、施工してください。

取り付け位置詳細:23ページ~

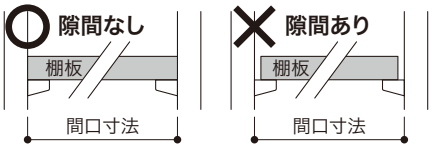
棚板は薄型面付アタッチメント用の下穴が開いていないので、指定の位置に約2mmの下穴を開けます。(下穴加工位置:下図参照)その後、プッシュラッチ取り付け後の薄型面付アタッチメントをトラスビスL=16で棚板へ取り付けてください。





カットする場合(棚板のみ)

間口寸法と同寸法に棚板をカットします。



ご注意

- 必ずエッジテープ側からカットしてください。
  反対側からカットすると、エッジテープが剥がれるおそれがあります。
- 網棚はカットできません。

樹脂金具について

樹脂金具は施工後に、側板・仕切板の微調整ができるよう、片方の穴が楕円になっています。側板・仕切板には必ず樹脂金具の正円の穴が当たるように固定してください。

樹脂金具 正円	➡ ダボ穴/側板・仕切板
樹脂金具 楕円	➡ 下穴/各棚板(固定)

ご注意

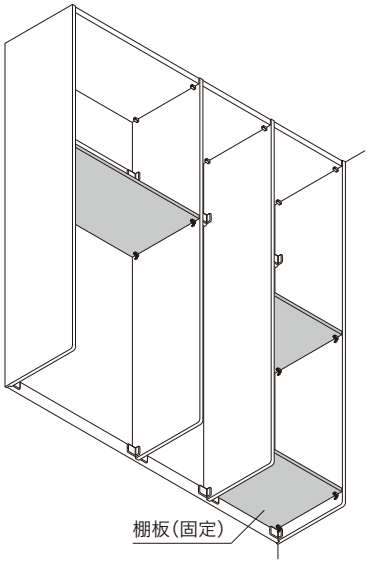
バインドビスの締め過ぎにご注意ください。
ビスが空回りすると、保持力がなくなり全体の強度を保てなくなる可能性があります。

各棚板と側板・仕切板のダボ穴を樹脂金具を使って右図のように固定してください。

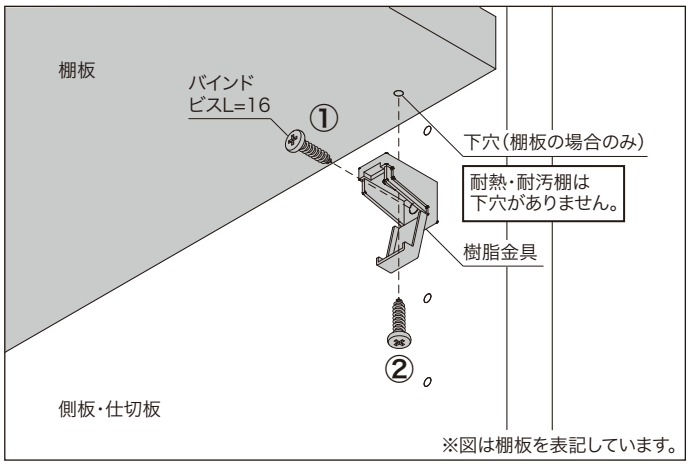
ご注意

- 網棚は金属部分で側板・仕切板にキズをつけないようご注意ください。
- 使用するダボ穴の位置が同じ高さになるようにご確認ください。

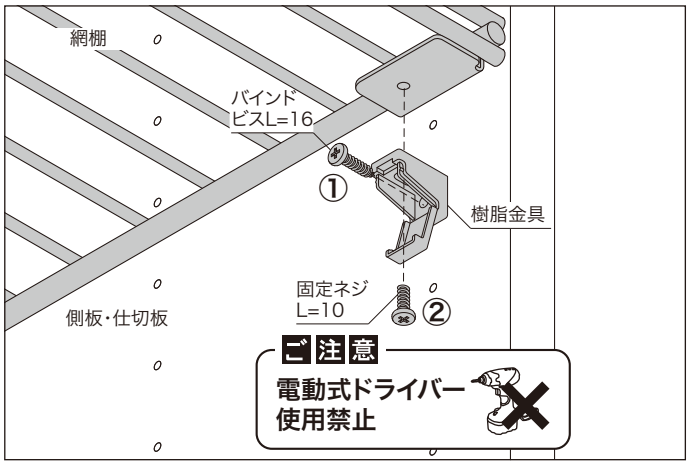
樹脂金具固定位置・・・・前後2カ所×左右



棚板、耐熱・耐汚棚の場合



網棚の場合



施工手順　下地固定・間柱固定 共通

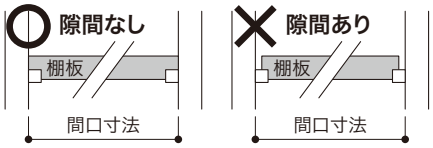
寸法単位:mm

9　各棚板(可動)の取り付け

躯体や側板・仕切板と背壁桟木の垂直・直角がとれていないと、各棚板の可動に影響が出ますのでご注意ください。

カットする場合(棚板のみ)

間口寸法と同寸法に棚板をカットします。



ご注意

●必ずエッジテープ側からカットしてください。
反対側からカットすると、エッジテープが剥がれるおそれがあります。

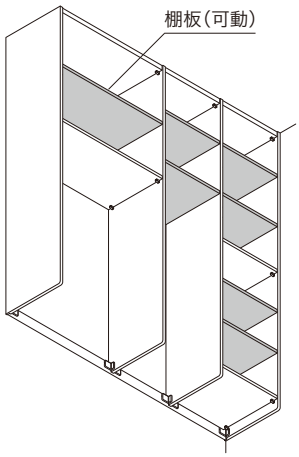
●網棚はカットできません。

可動棚受をダボ穴に奥までしっかり差し込み、各棚板をのせてください。
※可動棚受前用には前右・前左があり、形状が異なりますので取り付け時ご注意ください。

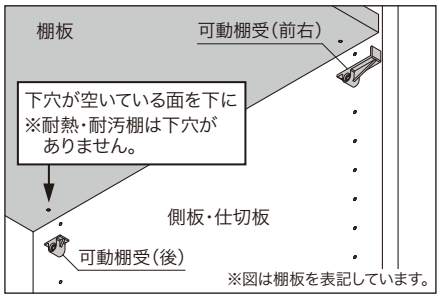
ご注意

●網棚は金属部分で側板・仕切板にキズをつけないようご注意ください。
●使用するダボ穴の位置が同じ高さになるようにご確認ください。

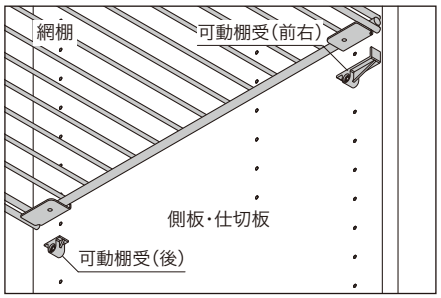
可動棚受取付位置・・・・前後2カ所×左右



棚板、耐熱・耐汚棚の場合



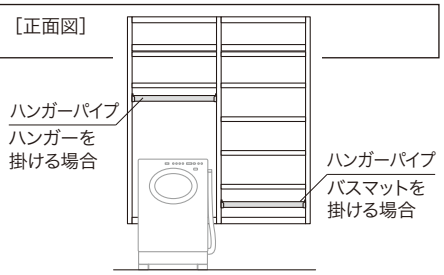
網棚の場合



10　ハンガーパイプの取り付け

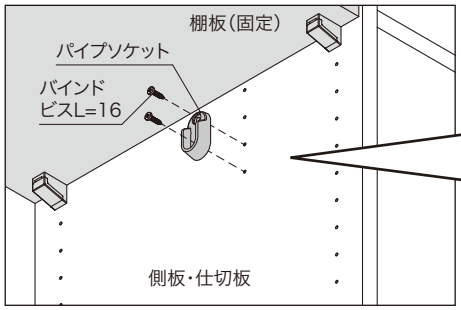
ご注意

ハンガーパイプの上部には必ず各棚板(固定)を取り付けてください。



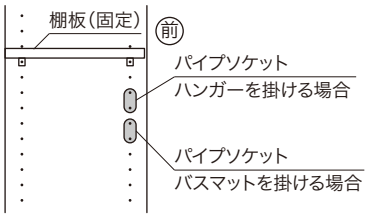
1　パイプソケットの取り付け

パイプソケットをダボ穴にバインドビスL=16で固定してください。

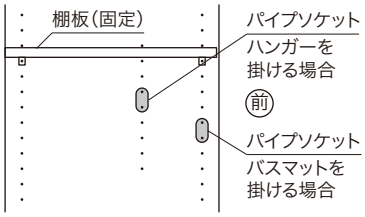


パイプソケット取付位置(推奨)

D3:各棚板(固定)から5、6個以内



D4:各棚板(固定)から5、6個以内

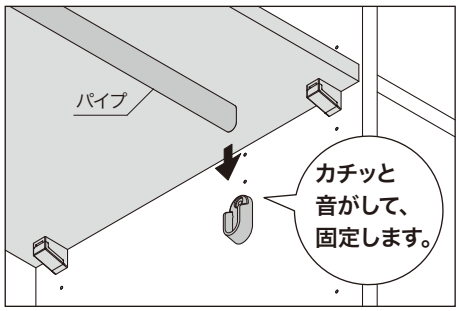


2　パイプの取り付け

取り付ける列の間口寸法からソケット厚(両側あわせて15mm)を差し引いた寸法にパイプをカットし、パイプソケットに取り付けてください。

ご注意

パイプはアルミ製です。
専用ノコでカットしてください。



施工手順　下地固定・間柱固定 共通

寸法単位：mm

11　上吊ハンガーパイプの取り付け

ご注意

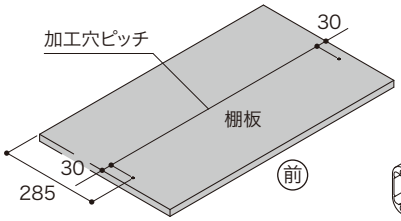
上吊ハンガーパイプには必ず棚板、耐熱・耐汚棚（D4のみ）のいずれかを取り付けてください。

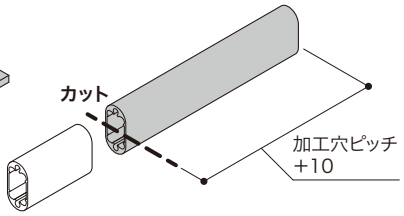
1　下穴加工

右図を参考に、両端ブラケットの取り付け位置に7mmのキリで下穴を開けます。棚板の間口をカットした場合は、パイプも右図を参考に加工穴ピッチ+10mmになるようカットしてください。

ご注意

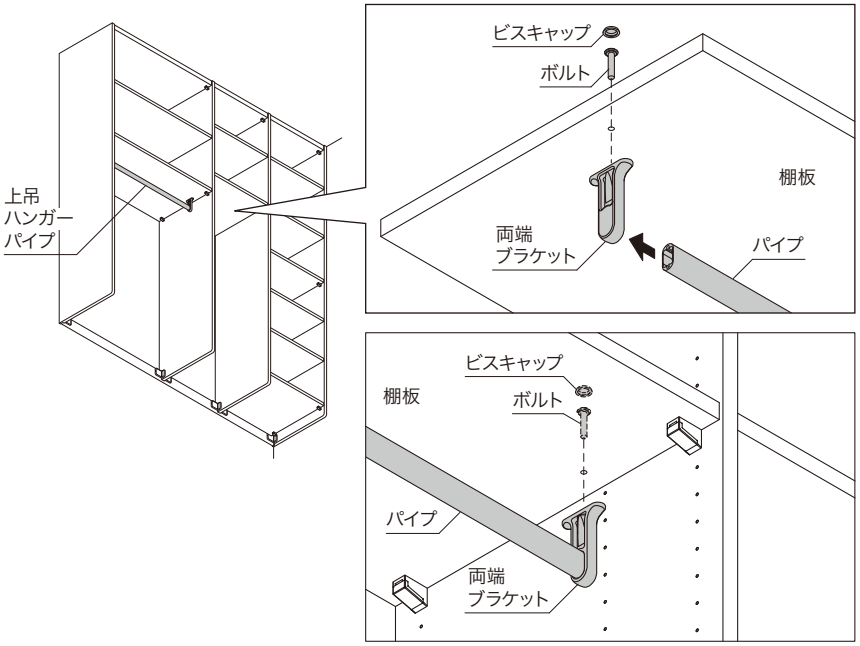
パイプはアルミ製です。専用ノコでカットしてください。





2　パイプの取り付け

下穴に向かって両端ブラケットを取り付け、棚板上部からボルトで固定します。その後、パイプを両端ブラケットに差し込みます。



もう片方の両端ブラケットをパイプへ差し込み、棚板上部からボルトで固定します。

12　フレーム引出しの取り付け

取り付け位置詳細：22ページ

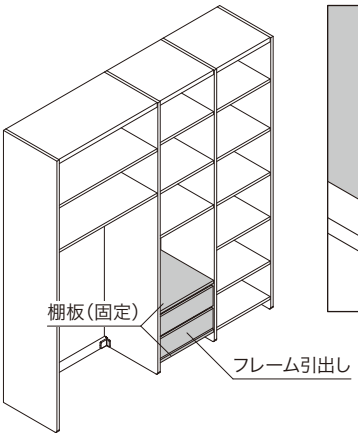
※図はフレーム引出し2段の場合を表記していますが、フレーム引出し3段・深型フレーム引出し1段も同じ手順で施工してください。

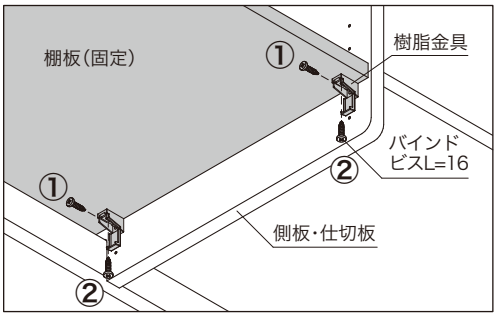
ご注意

フレーム引出しの上下には必ず棚板（固定）、耐熱・耐汚棚（固定）のいずれかを取り付けてください。
複数設置する場合は、最上段・最下段のみです。

1　下側の棚板の取り付け

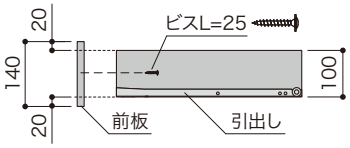
フレーム側板設置位置の2個下のダボ穴へ樹脂金具の正円側をバインドビスL=16で側板・仕切板へ取り付けてください。
その後、バインドビスL=16で棚板を固定してください。





2　前板の取り付け

前板の下穴に向かってビスL=25で取り付けてください。

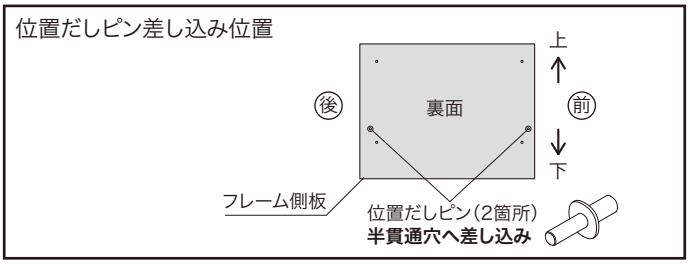


施工手順　下地固定・間柱固定 共通

寸法単位:mm

3 フレーム側板の取り付け

位置だしピンを図のように差し込み、フレーム側板の位置を出します。

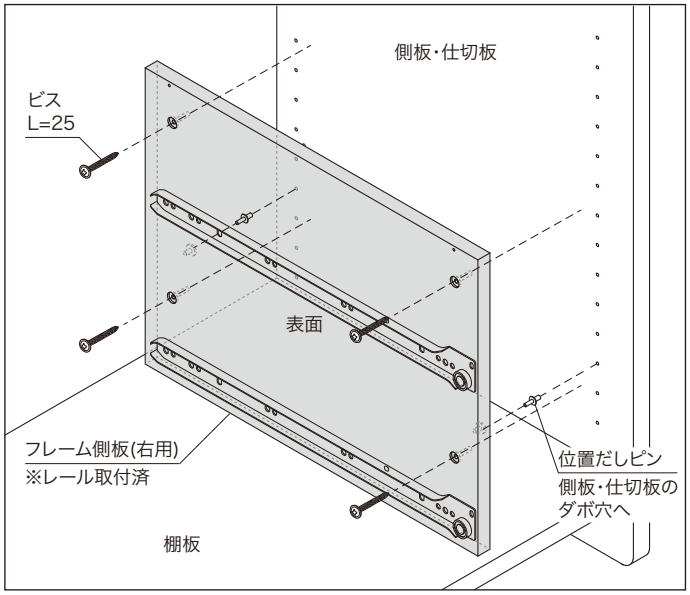


その後、フレーム側板表面の貫通穴からビスL=25で固定します。

ビス固定位置・・・・前後2箇所×上部・下部

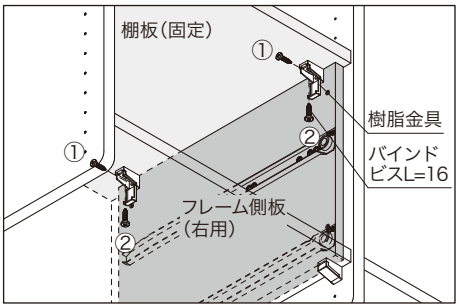
ご注意

- 複数取り付ける場合は下段から順に施工してください。
- フレーム側板は左用・右用があります。間違いのないように注意してください。



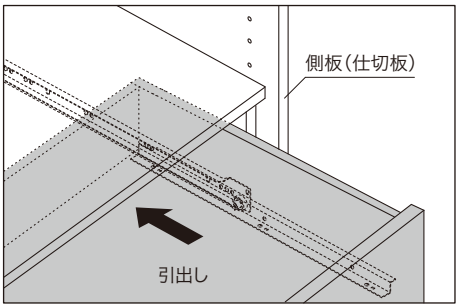
4 上側の棚板の取り付け

棚板(固定)とフレーム側板の上端の下穴を樹脂金具を使って図のように固定してください。



5 引出しの差し込み

引出しをスライドレールに差し込んでください。



13 バスケットの取り付け

取り付け位置詳細：22ページ

ご注意

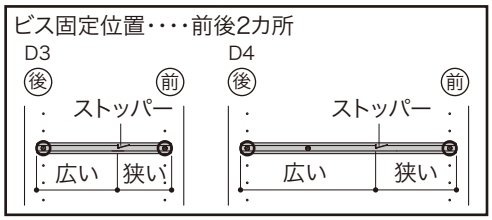
バスケットの上下には必ず各棚板(固定)を取り付けてください。複数設置する場合は、最上段・最下段のみです。

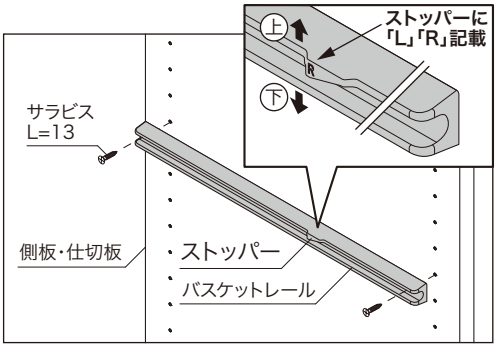
1 バスケットレールの取り付け

側板・仕切板へサラビスL=13を使って図のように固定してください。
レールの上下間隔は、ダボ穴5個以上あけて設置してください。

ご注意

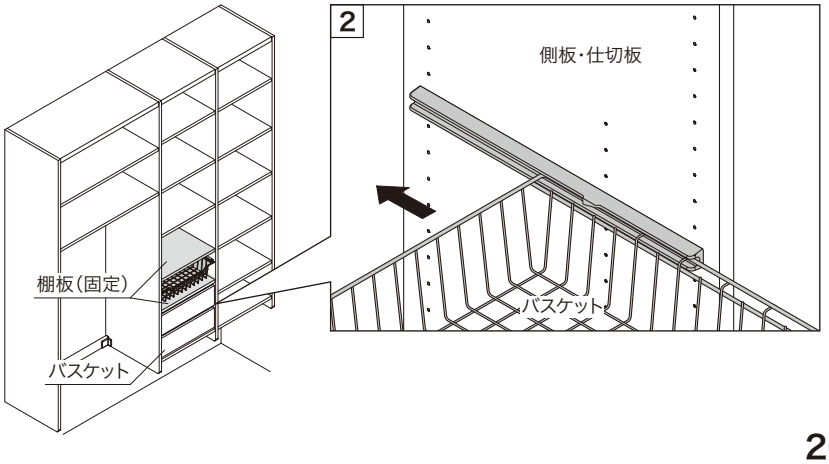
- バスケットレールには左用・右用があります。間違いのないように注意してください。
- ビスを強く締めすぎないようにしてください。バスケットレールが破損するおそれがあります。





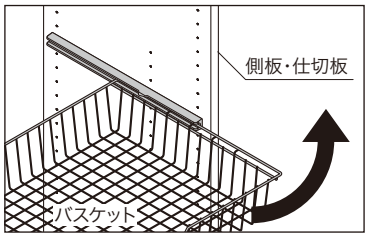
2 バスケットの差し込み

バスケットレールにバスケットを差し込んでください。



バスケットの取り外し

バスケットの手前を持ち上げながら取り外してください。



施工手順　下地固定・間柱固定 共通

寸法単位：mm

14　開戸の取り付け・調整方法

取り付け位置詳細：23ページ～

ご注意

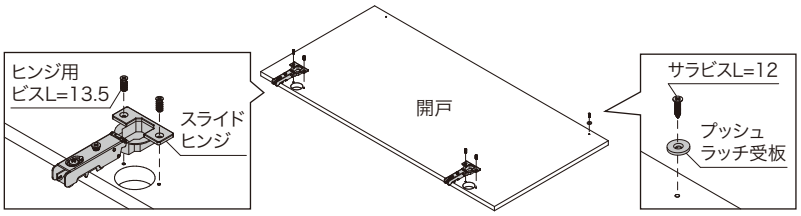
●開戸設置位置の上下には必ず棚板（固定）、フィラー天板のいずれかを取り付けてください。
●プッシュラッチを側板・仕切板へ取り付ける場合は、耐熱・耐汚棚（固定）、網棚（固定）も開戸の上下に設置できます。
●開戸は左右共通品です。上下反転させて使用します。

1　スライドヒンジ・プッシュラッチ受板の取り付け

開戸のそれぞれの下穴にスライドヒンジをヒンジ用ビスL=13.5、プッシュラッチ受板をサラビスL=12で取り付けます。

ご注意

電動式ドライバー使用禁止



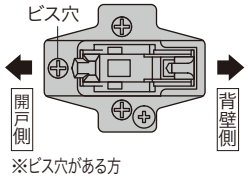
2　座金の取り付け

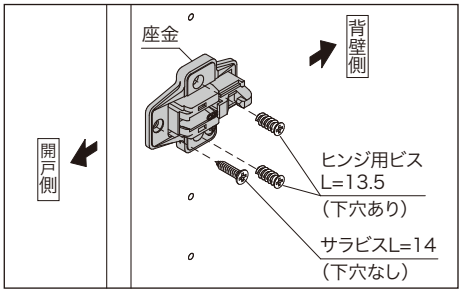
側板・仕切板のダボ穴に座金をヒンジ用ビスL=13.5、サラビスL=14で取り付けます。

ご注意

●座金の取り付け方向（右図参照）を必ずご確認ください。逆に取り付けると開戸を付けることが出来ませんのでご注意ください。

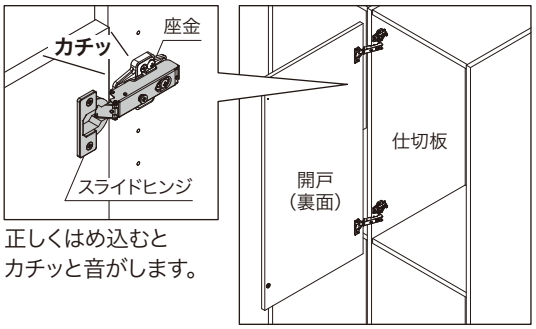
●**電動式ドライバー使用禁止**
※ヒンジ用ビスL＝13.5のみ





3　開戸の取り付け

開戸に取り付けたスライドヒンジを側板・仕切板に取り付けた座金にはめ込みます。

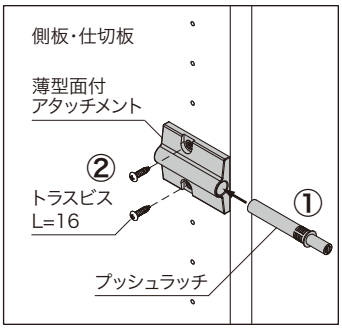


正しくはめ込むと
カチッと音がします。

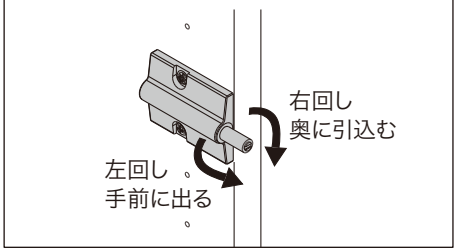
4　プッシュラッチの取り付け

プッシュラッチ取り付け後の薄型面付アタッチメントをトラスビスL=16でフィラー天板、または側板・仕切板に固定します。

※下図は **片開きタイプ** の場合を表記していますが、**両開きタイプ** も同様に施工してください。

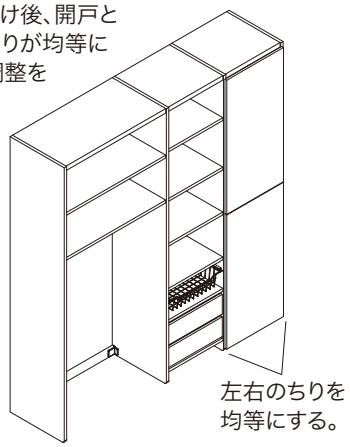


取り付け後、開戸の前面が合うように、プッシュラッチの出寸法を調整してください。



5　開戸の調整

開戸を取り付け後、開戸と本体側板のちりが均等になるように、調整を行ないます。



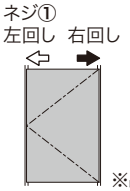
ご注意

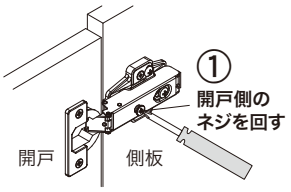
開戸の調整後必ず2～3回開閉し、確実に取り付いていることをご確認ください。

開戸の左右の位置を調節（吊元：左側の場合）

①のネジを左右に回して開戸の左右の位置を調整してください。

吊元	ネジ①	開戸
左側	右回し ➡	**右**に動く
	左回し ⇨	**左**に動く
右側	右回し ➡	**左**に動く
	左回し ⇨	**右**に動く

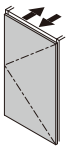


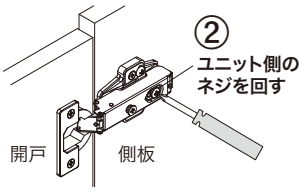


※吊元：右側の場合は左表を参照ください。

開戸とユニットの隙間を調節

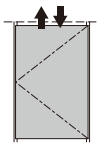
②のネジをゆるめ開戸を前後に動かして調節し、適正な位置で締め直して固定してください。

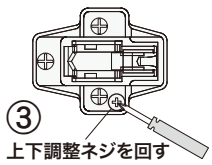




開戸の上下を調節

座金にある③のネジをゆるめ開戸を上下に動かして調節し適正な位置で締め直して固定してください。



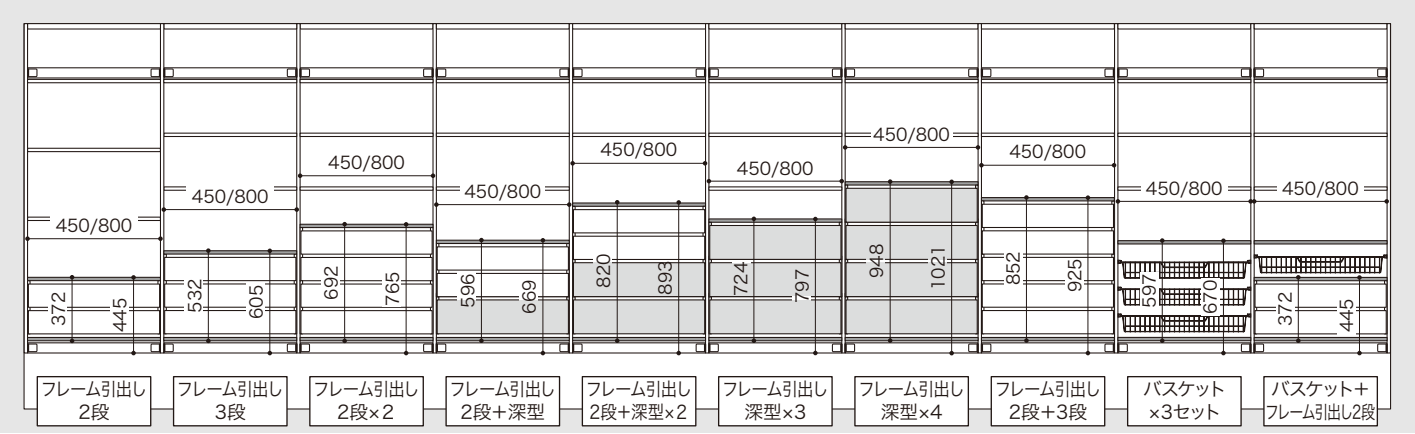


設置位置イメージ

寸法単位:mm

●バスケットの推奨取り付けピッチは160mm(ダボ穴5個分)です。
●最上部のバスケットの上には必ずバスケットレールを取り付けるダボ穴から3個以内のダボ穴に各棚板(固定)を取り付けてください。
●フレーム引出しを取り付ける場合は、上下に1枚ずつ必ず棚板(固定)、耐熱・耐汚棚(固定)のいずれかを設置してください。
●バスケットを取り付ける場合は、上下に1枚ずつ必ず各棚板(固定)を設置してください。
※各棚板＝棚板／耐熱・耐汚棚／網棚の3種類があります。

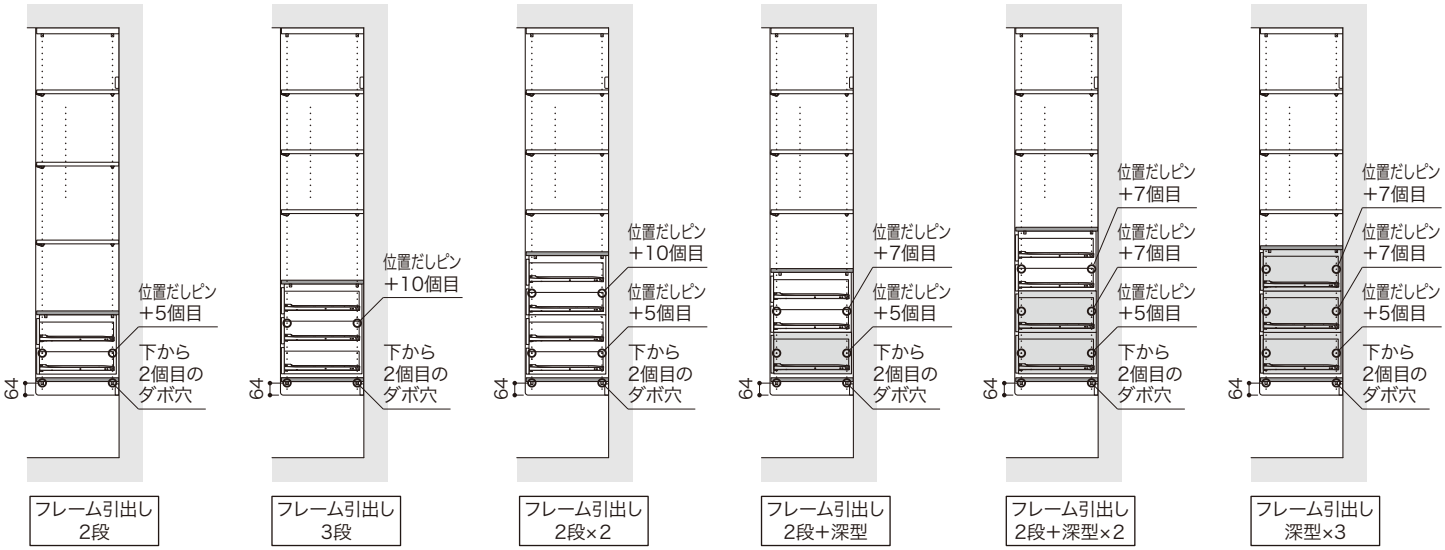
[正面図]

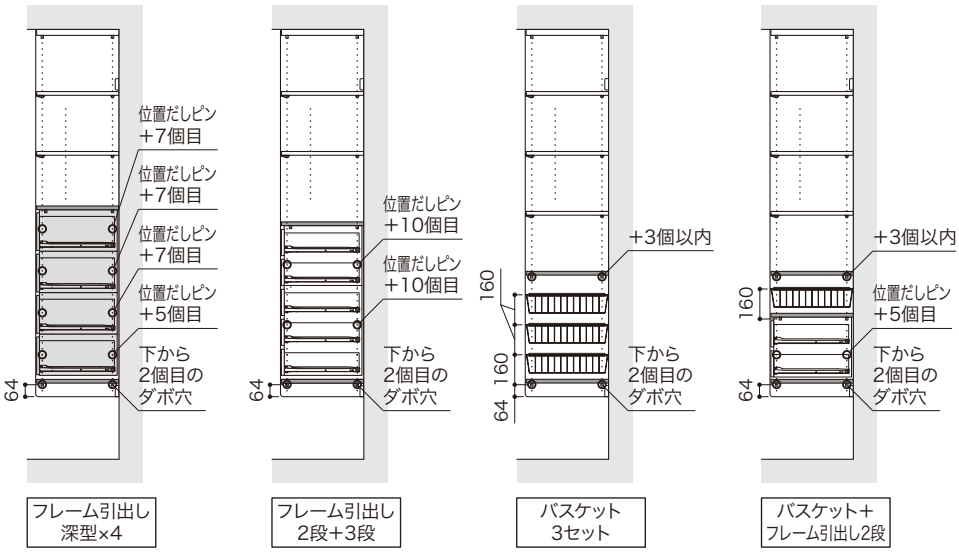


ビス固定位置／位置だしピン差し込み位置

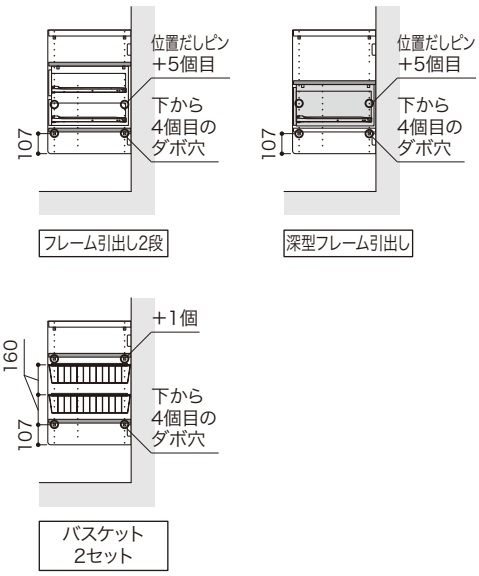
側板H1961

[断面図]





側板H660



設置位置イメージ

寸法単位：mm

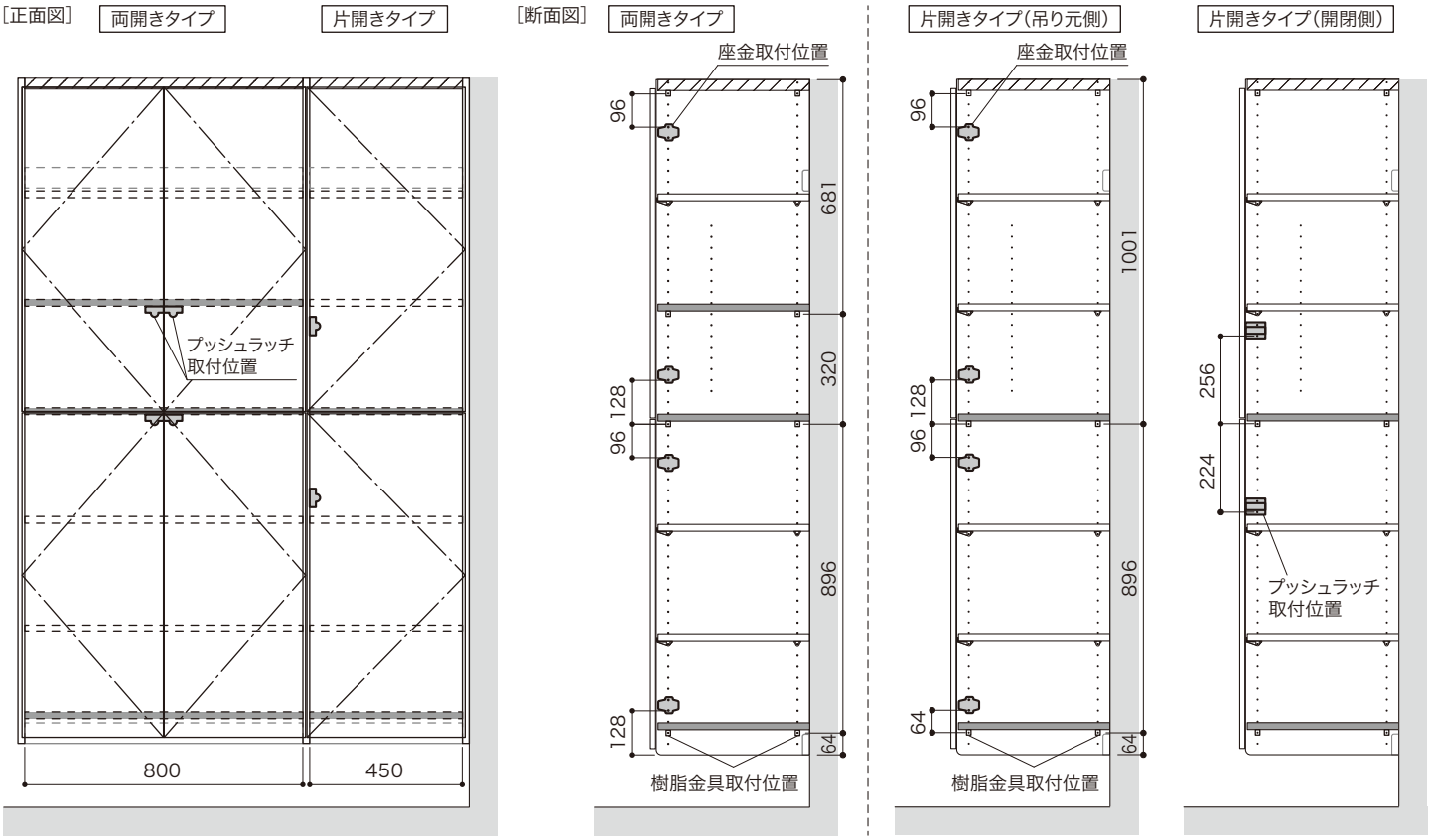
[樹脂金具・プッシュラッチ・座金の取り付け位置]

開戸のサイズにより、プッシュラッチを取り付けるパーツや位置が異なります。

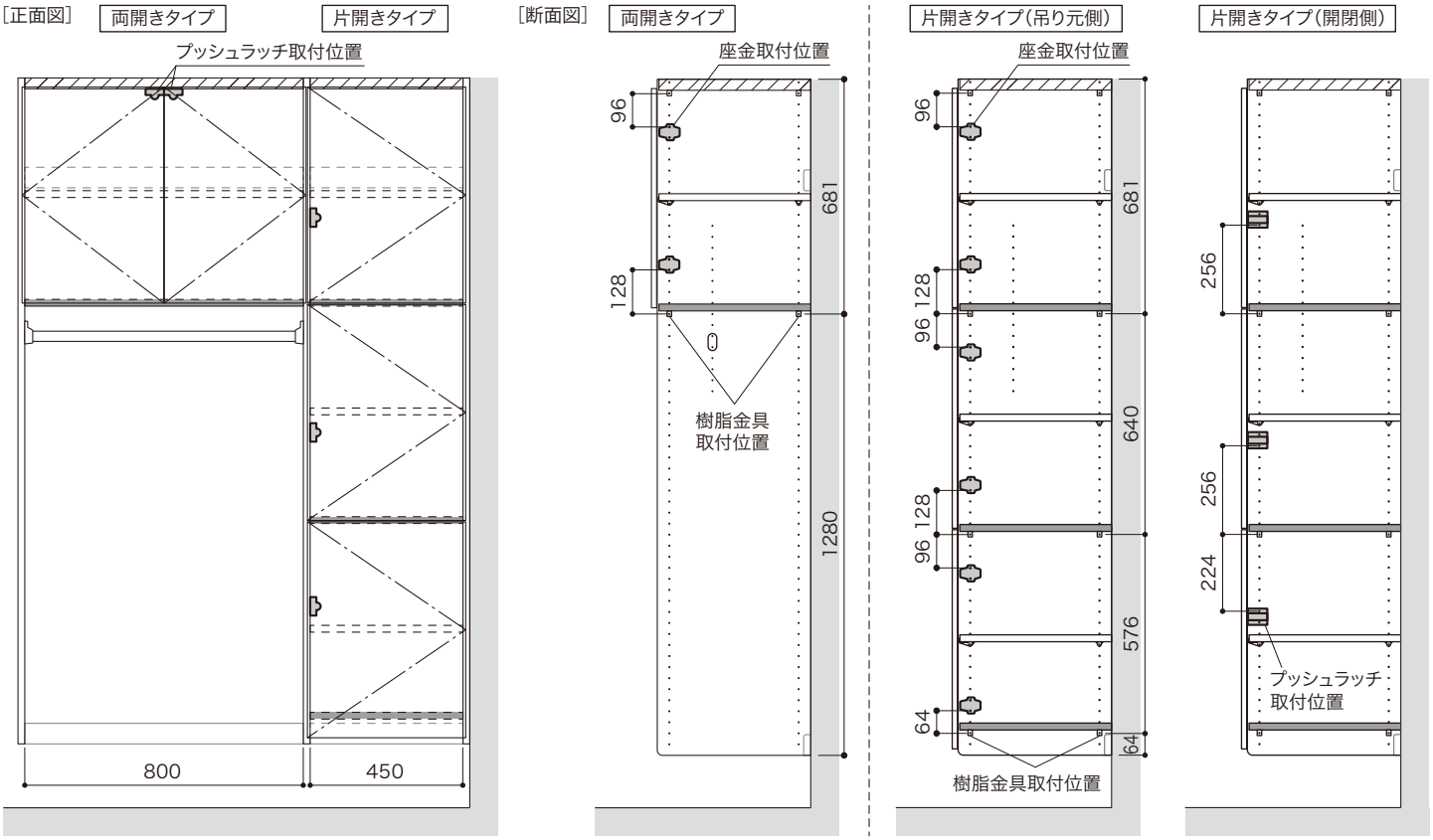
ご注意
プッシュラッチは耐熱・耐汚棚、網棚には取り付けできません。

側板H1961

■ 開戸H956



■ 開戸H636



設置位置イメージ

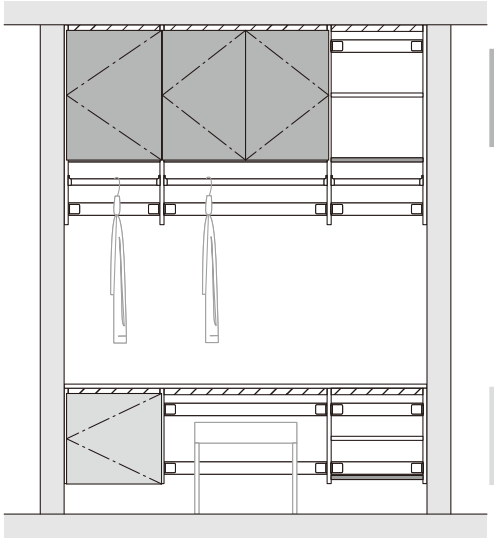
寸法単位：mm

[樹脂金具・プッシュラッチ・座金の取り付け位置]

上部収納 ・ 下部収納 や開戸のサイズにより、プッシュラッチを取り付けるパーツや位置が異なります。

ご注意

プッシュラッチは耐熱・耐汚棚、網棚には取り付けできません。



上部収納

下部収納

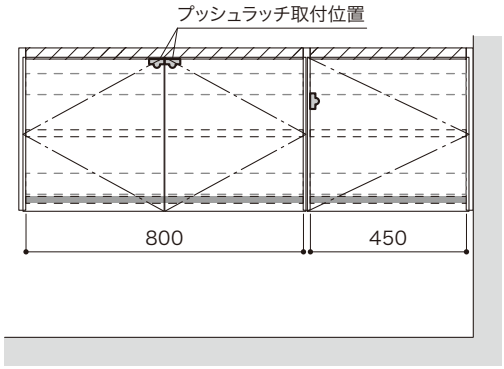
下部収納

※下図は D4 を記載していますが、D3 の場合も同様です。

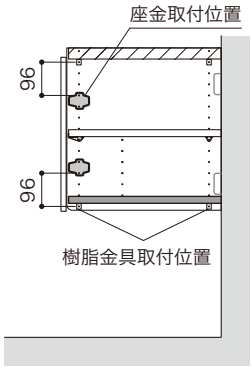
側板H468

■ 開戸H444

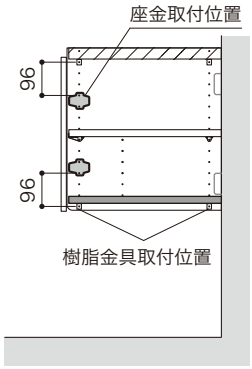
［正面図］ 両開きタイプ　片開きタイプ



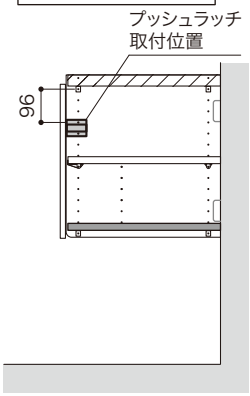
［断面図］ 両開きタイプ



片開きタイプ（吊り元側）



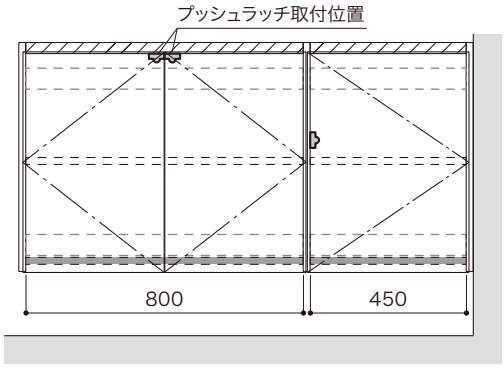
片開きタイプ（開閉側）



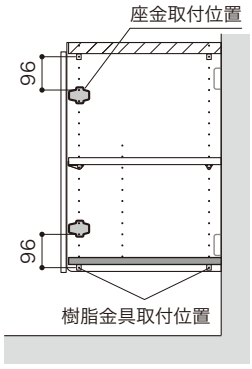
側板H666

■ 開戸H636

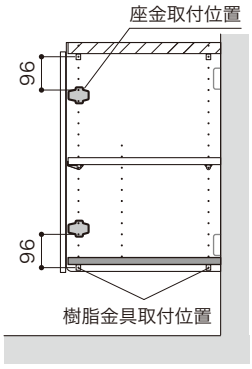
［正面図］ 両開きタイプ　片開きタイプ



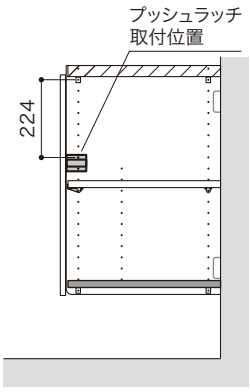
［断面図］ 両開きタイプ



片開きタイプ（吊り元側）



片開きタイプ（開閉側）



設置位置イメージ

寸法単位：mm

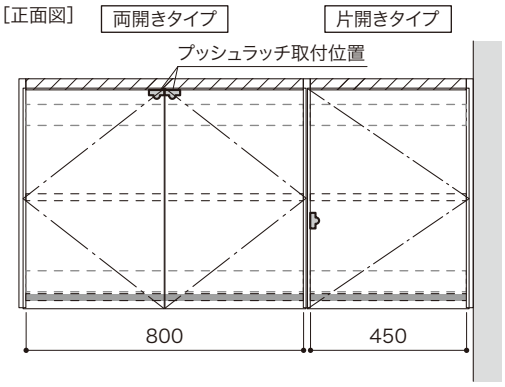
[樹脂金具・プッシュラッチ・座金の取り付け位置]

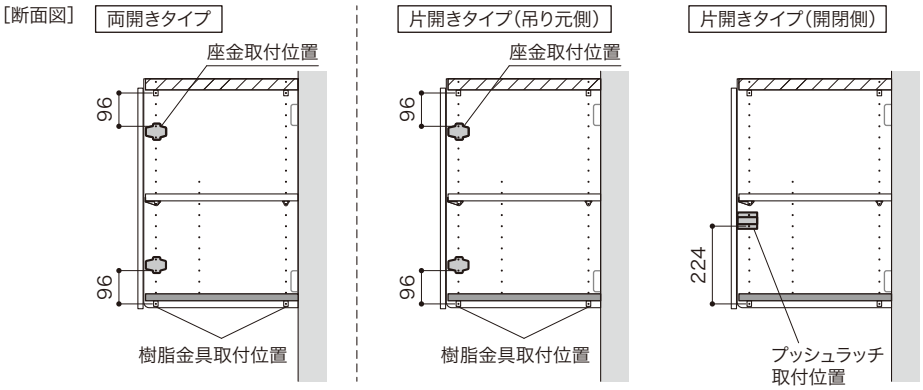
上部収納

※下図は D4 を記載していますが、D3 の場合も同様です。

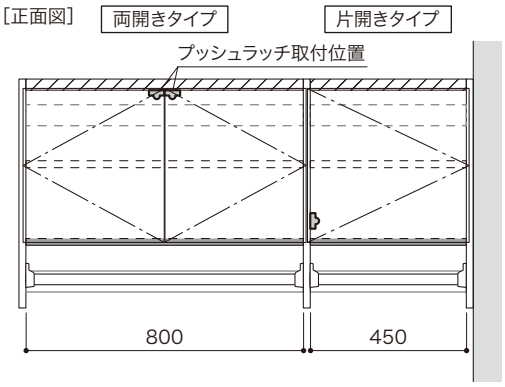
側板H660

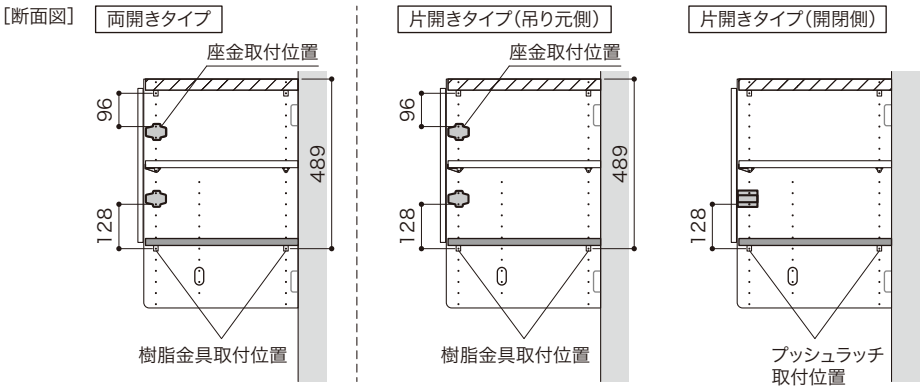
■ 開戸H636



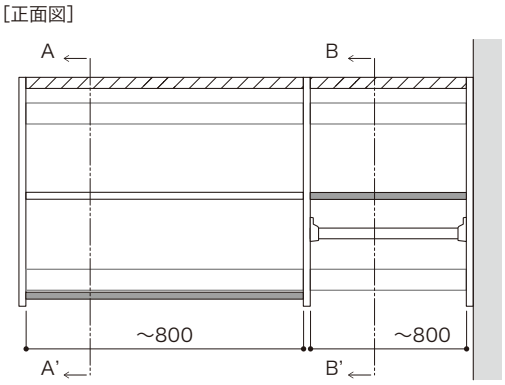


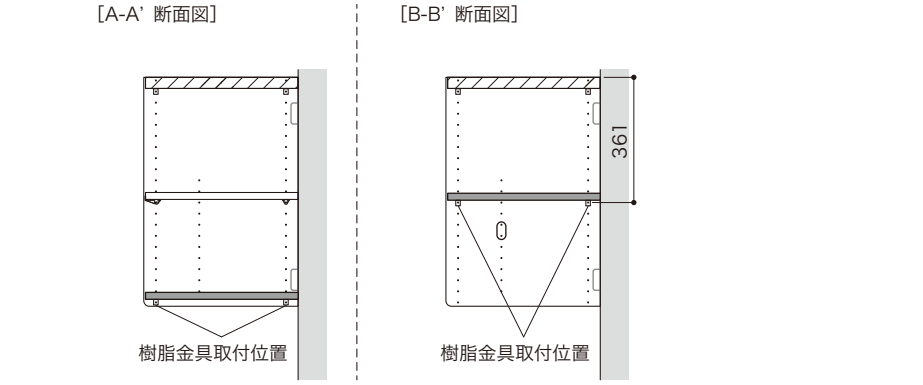
■ 開戸H444





■ 開戸なし





設置位置イメージ

寸法単位：mm

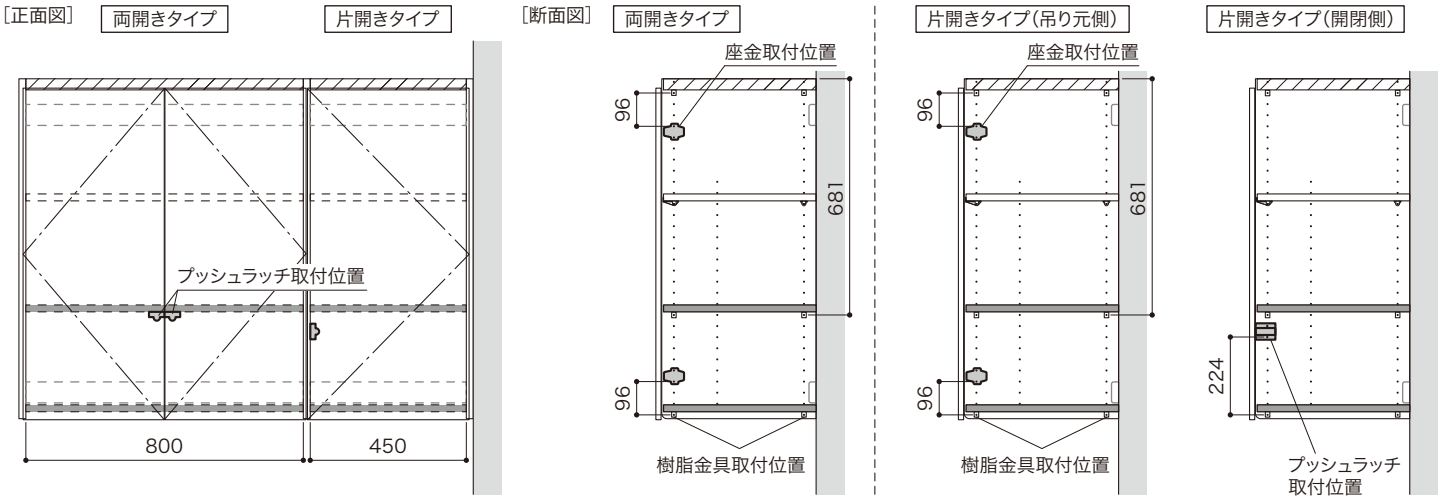
[樹脂金具・プッシュラッチ・座金の取り付け位置]

上部収納

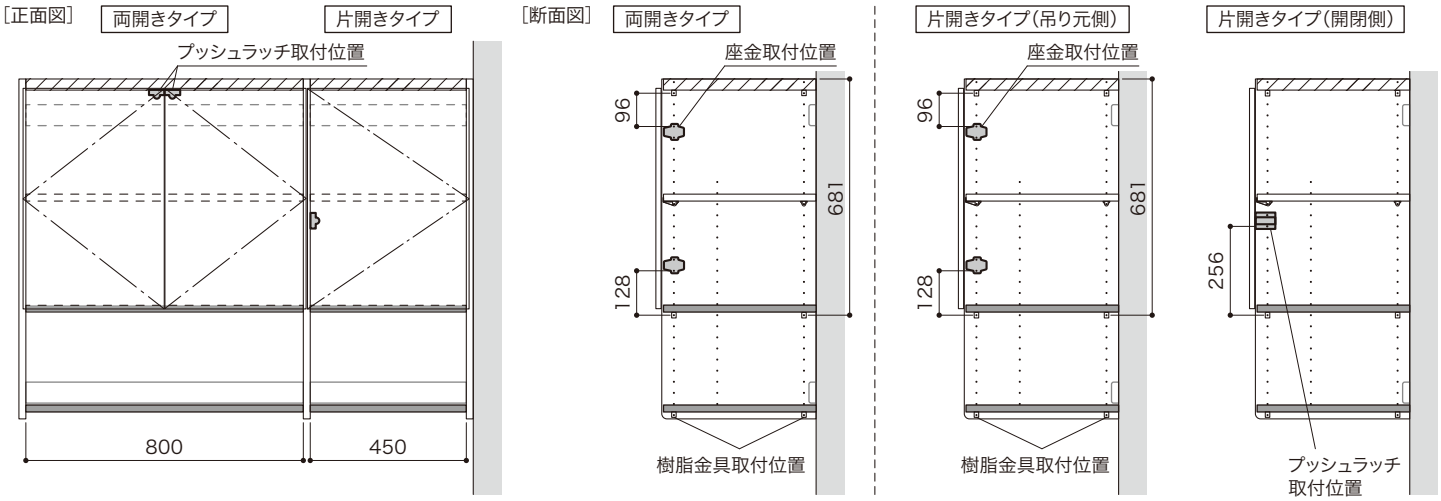
※下図は D4 を記載していますが、D3 の場合も同様です。

側板H980

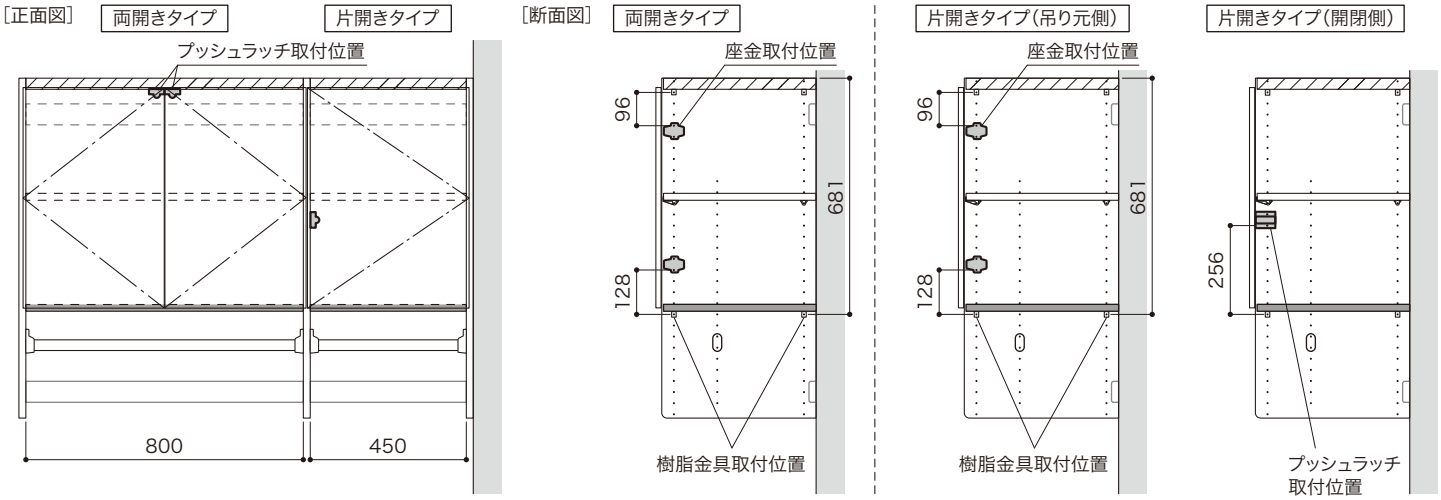
■ 開戸H956



■ 開戸H636



■ 開戸H636



建築基準法に基づくホルムアルデヒド発散等級表示

製品名：ランドリーパネル収納 ラクエル　-構成材料-

製造者：南海プライウッド（株）

発散区分：F☆☆☆☆

住宅部品表示ガイドラインによる

ロット番号：製品梱包に記載

内装仕上部分	
ホルムアルデヒド発散建築材料	発散区分
MDF	F☆☆☆☆
接着剤	F☆☆☆☆

下地部分	
ホルムアルデヒド発散建築材料	発散区分
MDF	F☆☆☆☆
パーティクルボード	F☆☆☆☆
合板	F☆☆☆☆
接着剤	F☆☆☆☆

○構成材料

部材・部位	材料名	表示区分	認定・登録種類	認定・登録番号	認定登録機関
開戸（シェルホワイト）	MDF化粧板	F☆☆☆☆	自主表示登録	K-001484	（一社）日本建材・住宅設備産業協会
開戸（鏡面ホワイト）	鏡面仕様オレフィンMDF化粧板	F☆☆☆☆	自主表示登録	K-002932	（一社）日本建材・住宅設備産業協会
耐熱・耐汚棚	金属調化粧ランバー	F☆☆☆☆	自主表示登録	K-002821	（一社）日本建材・住宅設備産業協会
耐水カウンター	塗装集成材	F☆☆☆☆	自主表示登録	K-002751	（一社）日本建材・住宅設備産業協会

ご注意

この用紙は建築基準法に基づく納入部材の確認書類となりますので、大切に保管して工事責任者へ渡してください。

問合せ先：品質管理チーム　087-894-8025

NANKAI PLYWOOD 南海プライウッド株式会社　本社　〒760-0067　香川県高松市松福町1-15-10

首都圏営業グループ
首都圏 第1チーム　TEL(087)825-3621　FAX(087)825-3645
首都圏 第2チーム　TEL(087)825-3621　FAX(087)825-3645

東日本営業グループ
北海道・東北営業チーム　TEL(087)825-3632　FAX(087)825-3695
関東甲信越営業チーム　TEL(087)806-3660　FAX(087)825-3645
中部営業チーム　TEL(087)825-3622　FAX(087)825-3646

西日本営業グループ
近畿営業チーム　TEL(087)825-3623　FAX(087)825-3647
中四国営業チーム　TEL(087)825-3624　FAX(087)825-3648
九州営業チーム　TEL(087)825-3625　FAX(087)825-3649

特需営業グループ
特需 第1チーム　TEL(087)825-3662　FAX(087)825-3669
特需 第2チーム　TEL(087)825-3662　FAX(087)825-3669

https://www.nankaiplywood.co.jp/